

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

【分科会 1（第 4 回）】 議事次第

令和 6 年 5 月 14 日（火）

11：00～12：00

（オンライン開催）

○「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた取組の在り方

1 開会

2 議題

（１）経過説明

- ・ 令和 5 年度におけるつながりサポーター養成講座の試行実施に関する報告
- ・ 令和 6 年度におけるつながりサポーター養成講座の本格実施に向けた共有

（２）意見交換

（３）その他

3 閉会

分科会 1 (第 4 回) プログラム

■日 時 令和6年5月14日(火) 11:00~12:00

■開催方法 Microsoft Teamsズームを活用したオンラインミーティング

■プログラム

時間	項目	担当(進行)	資料
11:00~	プログラムおよび配布資料の説明	内閣府	有(議事次第)
11:02~ (13分)	経過説明	あなたのいばしょ ／新公益連盟	有
11:15~ (40分)	意見交換	同上 ・大西政策参与	無
11:55~	事務連絡	内閣府	無

令和 5 年度における つながりサポーター養成講座の試行実施に関する報告



目次

- 01 背景
- 02 令和5年度における取組について
- 03 有識者検討会について
- 04 つながりサポーター養成講座の方向性について
- 05 養成テキストについて
- 06 令和5年度における試行実施について
- 07 試行実施におけるアンケートについて
- 08 令和6年度以降の本格実装に向けた主な論点について

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 分科会 1：「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた取組の在り方 これまでの検討成果の概要

令和 4 年 10 月 7 日

1. はじめに

- 「孤独・孤立対策の重点計画」(R3.12.28)の基本方針(1)をテーマとして、「支援を求める声を上げやすい・声を受け止める・声をかけやすい社会」に向けて、**孤独・孤立の理解・意識や機運を社会全体で高める取組の在り方**を検討。
(※方針(1)：孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする)

2. 検討の視点

- 「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(R3)」の結果を踏まえ、以下の**3つの視点から課題と対応策を検討**。
①**制度を知らない層**
②**制度は知っているが相談できない層**
③**相談者(相談を受ける人)になりうる層**

3. 現状と課題

&

4. 対策案

※ 対策案については、速やかに取り組むことが基本であるが、中長期的に取り組むものも含め、以下のようなことが考えられる。

① 制度を知らない層

- 当事者や家族に必要な情報が届くよう、**制度・情報に触れる機会の増加**が必要
- 「**プッシュ型**」、「**アウトリーチ型**」による**予防的な関わり強化**(※転入・転出、母子健康手帳交付時等)
- 制度や相談先の情報サイトやポータルサイト等を公共機関等のHPに掲載
- 検索連動型の広告・ポスター
- 孤独・孤立対策強化月間・週間**
- 地域で制度を学ぶ・周知の機会 等

② 制度は知っているが相談できない層

- 相談ハードルを下げる、相手への迷惑負担への配慮、**遠慮・我慢をなくす**が必要
- 制度や相談機関と接する機会の増加
- 申請負担感の削減(オンライン化等)**
- イベントやキャンペーンによる効果的な周知
- 孤独・孤立対策強化月間・週間
- 制度活用は権利**であることの**認識周知**
(例：アウティング防止、「主訴がわからない＝どうしたらよいかわからない状態」者への広告)
- 行政と民間団体の連携促進** 等

③ 相談者(相談を受ける人)になりうる層

- 社会的理解や関心、関われるタイミングやきっかけ、**ためらいの弊害の除去**が必要**
- 身近な**実践者の事例紹介**
- 様々なライフステージにて支え手になる方法を学ぶ活動の実施
- 認知症サポーター養成事業のような仕組み創設**
(※2005年開始、1,391万人(R4.6末)、全国統一のテキストによる90分程度の講座)
- ゲートキーパー等の既存の取組を推進**
- コーディネートやサポート体制の整備 等

④ その他

- 支援に関わる者は、孤独・孤立の実態(実態調査の結果等)を基礎知識として備えておくことが必要。
- 地方版官民連携プラットフォームを活用した好事例の構築・全国への普及**、自治体の幹部を含めた理解促進が重要。

5. おわりに

- 「4.対策案」は、**広く官民が連携し、相談者になりうる層の育成を基盤にして**孤独・孤立対策強化月間等に集中的に取り組むことが効果的。
- 分科会 1**としては、各種取組の進捗を確認しながら、**孤独・孤立の社会環境の変化や実態を把握しつつ、さらに検討**。
- なお、「**プッシュ型**」「**アウトリーチ型**」の支援については、**分科会 2、分科会 3**の議論とも連携しながら検討。

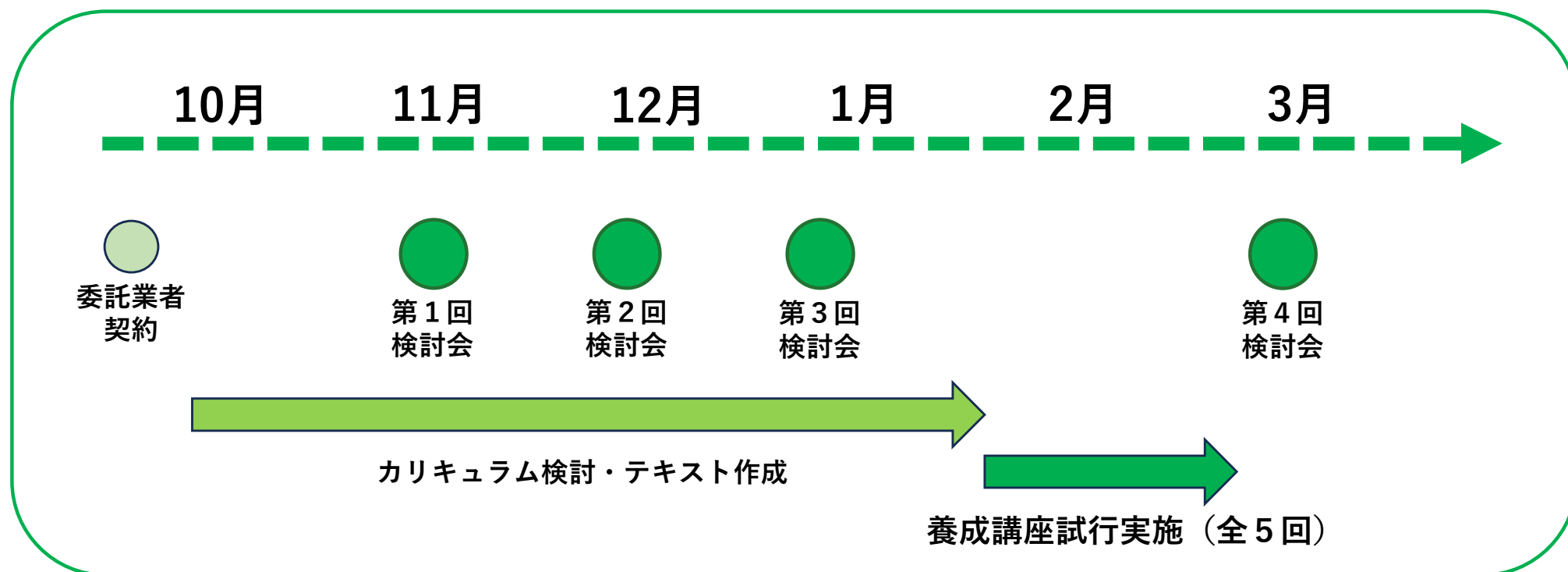
③相談者(相談を受ける人)になりうる層については、

「『認知症サポーター養成事業』を参考に、孤独・孤立の理解者を増やす活動として同養成講座のような仕組みを設ける。」とまとめている。

⇒孤独・孤立についての理解・意識や機運を社会全体で高めていくために、

孤独・孤立の問題を抱える当事者等をサポートする人材(つながりサポーター)を養成する必要。

「つながりサポーター」を養成するため、標準テキストの作成等、サポーターを養成するための仕組みづくりを目的。



2023年	10月	委託業者との契約 養成カリキュラム検討
	11月	第1回有識者検討会
	12月	第2回有識者検討会 養成テキスト作成
2024年	1月	第3回有識者検討会
	2月	養成講座試行実施 (全5回)
	3月	第4回有識者検討会

つながりサポーターの養成テキスト等の作成に関する意見の収集・分析を行うことを目的として、孤独・孤立対策に関わりのある有識者により構成される検討会の設置および運営を行なった。

【検討会有識者構成】

氏名	所属
阿部 綾子	山形県鶴岡市 健康福祉部地域包括ケア推進室 専門員
池田 三知子	一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs 本部長
井澤 徹	特定非営利活動法人新公益連盟
石井 綾華	特定非営利活動法人 LightRing. 代表理事
大空 幸星	特定非営利活動法人あなたのいばしょ 理事長
川口 寿弘	鳥取県鳥取市 総務部人権政策局 次長 中央人権福祉センター 所長
北村 肇	特定非営利活動法人地域共生政策自治体連携機構 事務局次長
清水 達也	一般社団法人日本産業カウンセラー協会 執行理事
原田 正樹	日本福祉大学 学長

第1回

令和5年11月15日

- 事業概要およびスケジュールの共有
- 養成テキストの方向性の共有・議論
- 試行実施場所候補に関する共有

第3回

令和6年1月18日

- 養成テキスト最終稿の共有・議論
- 試行実施に関する具体的調整

第2回

令和5年12月18日

- 養成テキスト案の共有
- 試行実施場所の報告

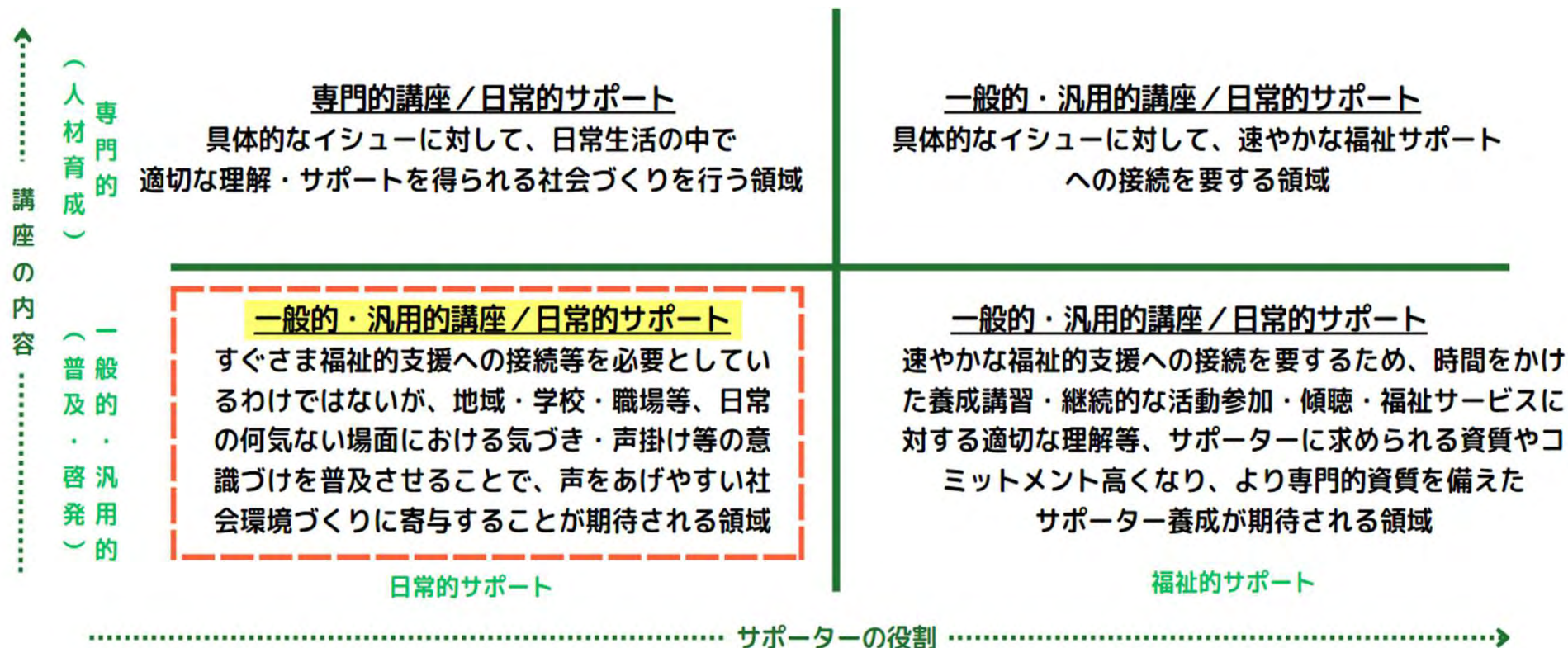
第4回

令和6年3月12日

- 試行実施結果に関する共有
- こども版テキストに向けた検討
- 次年度以降の本格実装に向けた議論

つながりサポーター養成講座は、孤独・孤立に関する問題の普及・啓発を目的とする。

孤独・孤立にも関連する既存の養成講座が存在する中で、(ゲートキーパー、ひきこもりサポーター等) 近接する他領域の養成制度との棲み分けについて下図のとおり整理



つながりサポーター養成講座

→ 普段から福祉に携わっている人だけでなく、専門的知識をもたない国民全般も対象とした。

→ 専門家を育成するのではなく、日常の何気ない場面での気づきや声かけ等の意識づけを促し、声を上げやすい社会環境づくりをしてくための普及・啓発を主たる目的としている。

つながりサポーターの養成に必要な基礎的知識や求められる能力等をまとめた標準テキストを作成。
また、養成講座の将来的な展開に向けて、講師に特別な資質や能力を求めず、
誰でも講師を務めていただけるように、標準テキストの章ごとの時間配分の目安や、留意事項および各
スライドにおける解説例を示した“講師用テキスト”も作成。

	項目	時間目安
1	はじめに	5分
2	孤独・孤立の何が問題か	13分
3	つながりを考えてみよう	5分
4	調査結果からわかること	8分
5	困ったときどうする？	12分
6	相談窓口を知ろう	12分
7	地域の活動を知ろう	3分
8	最後に	2分
	参考資料	

<養成テキスト>



<講師用テキスト>

スライド5：孤独・孤立とはどのような状態？

孤独・孤立とはどのような状態？

孤独・孤立とは、一般的には以下のように定義されています。

「孤独」は自分の存在を認められ、受け入れられ、必要とされている状態を指し、精神的な状態を指し、寂しいことという感情を含めて用いられることがある。というふうに使われています。次に孤立とは客観的な状態であり、社会とのつながりや関係がない、または少ない状態を指す。このように使われています。

「孤立」は客観的な状態であり、社会とのつながりや関係がない、または少ない状態を指す。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

孤独と孤立は必ずしも同時に発生するとは限りません。

前半では、「孤独・孤立とは何か？」という基本的な知識に加えて、誰もが孤独・孤立に陥りやすくなっている社会背景、身近にある孤独・孤立状態の例、孤独・孤立に関する調査データを紹介する。孤独・孤立は社会構造上発生しており、個人の責任（自己責任）ではないということ、他人事でなく自身や身近なところで発生している問題であることを説明。後半では、個人ワークを取り入れ、自分そして周囲の人が悩みや困りごとを抱えたときにできることを考えていただく。さらに具体的な行動例を示すことで基本的な対応を学ぶとともに、対応する相談窓口や地域活動を紹介する。

つながりサポーターの確保・養成に必要な手法の調査の一環として、作成した養成テキストをもとに、「つながりサポーター養成講座」の試行を全5回実施した。

学校、企業、自治体にて実施し、学生や職員、地域の人などを対象に行った。詳細は以下のとおり。なお、講師用テキストの検証と改善のため、講師には有識者検討委員会の委員が参加した。

実施協力団体	開催日時	参加者	参加人数	開催方式
日本工学院専門学校	令和6年2月2日(金) 13時10分～14時25分	ミュージックアーティスト科 1年生・2年生	79名	対面
山形県鶴岡市	令和6年2月9日(金) 14時00分～15時00分	社会福祉協議会、民生委員、市役所の職員など	46名	対面
北海道登別市	令和6年2月16日(金) 14時40分～15時55分	民生委員、児童委員、地域包括支援センター職員、市役所職員等	46名	対面
奈良県生駒市	令和6年2月21日(水) 10時00分～11時15分	民生委員、児童委員、地域包括支援センター職員、市役所職員等	19名	対面
日本生命保険相互会社	令和6年2月26日(月) 17時30分～18時45分	日本生命保険相互会社の社員	58名	対面・オンライン (ハイブリッド開催)



実施当日に、受講者全員を対象としたアンケート調査(紙媒体、記述式含む設問 18 問)を実施。
アンケートは、「孤独・孤立への興味関心の高まりは見られたか」「つながりサポーターの活動に対する意欲はどの程度か」「講座の時間やテキストの難易度は適切か」など、養成講座の内容を評価するための項目を設定し、試行実施の効果の測定を行った。

no	設問	回答選択肢
-	性別	男性/女性/その他/答えたくない
-	年齢	10代/20代/30代/40代/50代/60代/70代/80歳以上
-	所属団体	自由記述
1	本講座を受講する前と比べて、孤独・孤立に対する理解に変化はありましたか？	よく理解できた/どちらかという理解できた/どちらかという変わらない/全く変わらない
2	孤独・孤立の問題について興味・関心は高まりましたか？	非常に高まった/どちらかという高まった/どちらかという変わらない/全く変わらない
3	周囲に悩みや困りごとを抱えている人がいたら、できる範囲でサポートしようと思いますか？	そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/全くそう思わない
4	<3>の回答を選択した理由についてお聞かせください。	自由記述
5	自分が悩みや困りごとを抱えたとき、相談窓口を活用しようと思いますか？	そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/全くそう思わない
6	<5>の回答を選択した理由についてお聞かせください。	自由記述
7	周囲の人が悩みや困りごとを抱えているとき、相談窓口を勧めようと思いますか？	そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/全くそう思わない
8	<7>の回答を選択した理由についてお聞かせください。	自由記述
9	本講座の時間について教えてください。	長すぎる/長い/ちょうど良い/短い/短すぎる
10	テキストの内容のわかりやすさを教えてください。	やさしすぎる/やさしい/ちょうど良い/難しい/難しすぎる
11	高校生にとってもわかりやすい内容だと感じますか？(※日本工学院の場合のみ)	やさしすぎる/やさしい/ちょうど良い/難しい/難しすぎる
12	<11>の回答を選択した理由についてお聞かせください。(※日本工学院の場合のみ)	自由記述
13	企業の研修等で使う場合に、内容は十分と感じますか？(※日本生命の場合のみ)	かなりものたりない/少しものたりない/ちょうど良い/少し余分な内容がある/かなり余分な内容がある
14	<13>の回答を選択した理由についてお聞かせください。(※日本生命の場合のみ)	自由記述
15	本講座で分からなかったこと、もっと知りたいことがあればご記入ください。	自由記述
16	本講座の受講を勧めたい団体や関係機関があれば教えてください。(※鶴岡市の場合のみ)	自由記述
17	用語や表現で不適切だったり、気になったりしたものがあれば教えてください。	自由記述
18	改善点やお気づきの点があれば自由にご記入ください。	自由記述

★アンケート結果サマリー

【孤独・孤立への理解の深まり、興味関心の醸成について】

- ・「理解できた」「興味関心が高まった」の回答割合が高く、理解増進、興味関心の熟成は達成できている

【相談窓口の活用、他者へのサポートへの意欲について】

- ・「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合が高く、窓口の活用やサポートへの意欲は高まっている

【講座の時間について】

- ・「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、講座の時間は60分が適切と考えられる

【テキストの内容のわかりやすさについて】

- ・「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、現状の難易度が適切と考えられる

【高校生にとってのテキストの内容のわかりやすさについて】 ※日本工学院のみ

- ・「（高校生にとって）ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、高校生は大人版の受講者に含めて良いと考えられる

【企業の研修等で使う際の内容の過不足について】 ※日本生命のみ

- ・「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、ついで「少しものたりない」が高い
要因：今回の受講者は日頃から孤独・孤立の問題に接しており、すでに興味関心を持っているため、内容に少しものたりなさを感じたと考えられる

【オンライン実施について】

- ・オンライン/オフラインで回答結果に違いは見られなかったため、オンラインでの実施も念頭に置く

令和6年2月に実施した養成講座の試行実施後に、有識者検討会を開催。（令和6年3月12日）
検討会では、試行実施結果の共有および、令和6年度以降の本格実装に向けた議論を行い、
有識者からの指摘を踏まえて、課題や論点の整理を行った。
主な論点としては以下のとおり。

1. つながりサポーター養成講座の本格実装に向けて

1) 受講者がステップアップできる体制の整備

認知症サポーター養成事業では、養成講座の講師役を養成するための研修（指導者の養成研修）も行なっている。

このような受講者がステップアップできる体制についても、今後整備していくことが考えられる。
また、すでに孤独・孤立の問題に関わっており、より専門的なスキルを学びたい人などに対して、
今後、上級者養成講座のようなものを別途設けることも考えられる。

1. つながりサポーター養成講座の本格実装に向けて

2) ライト層の興味・関心を高める工夫

本格実装以降、さらに講座を拡大していくにあたり、
孤独・孤立に対して興味・関心の薄い層も受講したくなる工夫には以下のようなものが考えられる。

【視覚的な工夫】：写真、DVD、劇、映像（ドキュメンタリーやインタビュー）

【レジュメ】：まとめに当たるポイントを空欄にし、その空欄を受講者に埋めてもらう。

聞きながら空欄を埋めていってもらうことで、養成テキストの内容を記憶に定着させる

【紙芝居】：標準テキストを紙芝居の形にする。たとえば講師役としてセリフを決めていただくことも可。
アイスブレイクや交流にもつながる。

【講座の作り手になってもらう】

：聞き手ではなく作り手側として、映像や劇、紙芝居をつくる時間を学校の講義計画に位置付ける。

作り手側は当事者になるため、自分ごととして面白がって考えられる

ただし、以下の点を考慮する必要がある。

- ・実施主体の負担の増加
- ・映像系のコンテンツにおける機材トラブルのリスク
- ・視覚障害のある方や聴覚障害のある方への配慮

1. つながりサポーター養成講座の本格実装に向けて

3) 普及効果をより高めるための工夫

①啓発効果のあるグッズの配布

認知症サポーター養成事業では、受講者にオレンジリング等を配布している。こうしたグッズを見たことをきっかけに認知症サポーターの存在を知る人などがおり、普及効果が認められている。つながりサポーター養成講座においても、受講証以外に普及効果のあるグッズを配布することも考えられる。

②サポーター同士が情報交換する場の設計

つながりサポーター同士の横のつながりを広めるため、養成講座を受講した人同士が気軽に情報交換をしたり、支援機関の人との顔つなぎをするような場をつくったりすることが考えられる。

③ウェブサイトの公開

つながりサポーター養成講座についてより明確にイメージしてもらうため、受講者のインタビューなどを掲載したウェブサイトを公開することが考えられる。

1. つながりサポーター養成講座の本格実装に向けて

4) その他の論点

①養成講座の立て付け

つながりサポーター養成講座の本格実施にあたっては、事務局機能を担える機関の設置や、自治体、企業、学校等が実施する際のインセンティブ設計などの立て付けを考える必要がある。

②養成講座の効果測定時のKPI

つながりサポーターは「孤独・孤立の問題について知識を身につけ、身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートする人」であり、「困っている人を窓口につなぐだけの人」ではない。
つながりサポーター養成講座の効果測定を行う際、困っている人を「どこまでつなげたのか」「どの支援機関や関係機関にいくつつないだのか」がKPIにならないよう留意する必要がある。

③実施主体による講義時間の調整

受講者の属性によっては、講義時間（60分）の長さを調整することもある。（すでに孤独・孤立に対して興味・関心の強い人が受講する場合や、高校生を対象に授業時間に合わせて実施する場合等）
一方で、その際には養成テキストの内容の変更、簡略化などが必要になる可能性があり、変更、簡略化した養成テキストをもって受講を修了として良いかという点は要検討である。

④支援者支援の視点の追加

つながりサポーターとして活動する中で、悩みや困りごとを抱えるものからの相談を受けているうちに、サポーター自身がしんどくなってしまうケースも考えられる。そのような場合にも、サポーター自身も相談窓口を活用いただける旨や、活動時の相談者との関係継続のアドバイス等を盛り込むなど、サポーターとなりうる支援者を支援するような視点を盛り込むことも重要である。

2. こども版テキストの検討について

1) 次年度以降の検討事項

①教育関係者の議論の場への参加

こども版の作成に関しては、以下の論点も踏まえて、学校現場に詳しい教育関係者の関与についても検討する必要がある。

- ・学校には担任の教師、養護教諭、スクールカウンセラー、保健室の先生らがいるが、こどもにとっての相談相手を誰に位置付けるか
- ・学校の講義計画につながりサポーター養成講座をどう位置付けるか
- ・養成テキストで使用する文字、漢字、ルビ振りなどは受講者の対象年齢に最適化されているか

②対象年齢の設定

養成テキストの内容、書き振り、表記の検討にあたり、こども版の対象年齢を設定する必要がある。

③議論のベースとなるデータ・エビデンスの収集

こども版テキストの検討にあたっては、「支援の受け方がわからないこどもの数」「支援が必要ではないと言っているこどもの数」などのといったデータ・エビデンスに基づいて議論を始める必要があると考えられる。

「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」は、16歳以上を対象としており、こども版の対象者は含まれていない。

そのため、

- ・こどもたちを対象にした調査を行う
- ・「こども・若者の意識と生活に関する調査」（令和4年度 内閣府）』などですでに示されているエビデンスやデータを集める
- ・『こども若者★いけんぷらす』や基本政策部会、こどもの居場所部会などでこどもたちからアンケートをとっているこども家庭庁の方に話を聞く

などして、議論の土壌を整える必要がある。

令和 6 年度 つながりサポーター養成講座の本格実施に向けた作業スケジュール想定

	2024年									2025年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
分科会関係	 担当幹事会	 分科会 1		 . . . その後の開催は要調整								
検討会関係 (※)		 検討会委員調整							 検討会開催（5 回程度を想定）			
講座実施		 孤独・孤立対策強化月間における つながりサポーター養成講座実施（全 2 回）			 養成講座協力団体調整			 養成講座実施（20 団体程度を想定）				

→ 令和 5 年度の試行事業においてまとめた、本格実装に向けた論点・課題をもとに、

- こども向けテキスト作成の検討
- ステップアップ講座の検討
- 事務局機能の設置や受講証明書の配布等を含む、養成講座の立てつけに関する検討 など

以上に関して、有識者検討会や各地さまざまな主体での養成講座実施を踏まえて取組を推進する。

(※) 本格実施に向けた検討会と分科会 1 本体との関係性については、今後検討して整理する予定

つながりサポーター養成講座

標準テキスト



1	はじめに	p1～3
2	孤独・孤立の何が問題か	p4～9
3	つながりを考えてみよう	p10～12
4	調査結果からわかること	p13～17
5	困ったときどうする？	p18～23
6	相談窓口を知ろう	p24～28
7	地域活動を知ろう	p29～30
8	最後に	p31
	参考資料	p32～38

孤独・孤立に悩む人を 誰ひとり取り残さない社会を目指して

いまの社会は、単身世帯の増加や働き方の多様化などにより、家族や地域、会社などとのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立状態に陥りやすい状況になっています。

孤独・孤立状態になると、最初は小さな悩みや困りごとであったものが、一人で抱えこんでしまうことで複雑化・深刻化することがあります。

こうした状況に対応するため、政府は2021年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」を策定し、2023年5月には「孤独・孤立対策推進法」が成立しました。

孤独・孤立対策推進法の下で、「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」「相互に支え合い、人と人との『つながり』が生まれる社会」を目指していきます。

「つながりサポーター」とは？

「つながりサポーター」は、なにか「特別なことをする人」
「しなければならない人」ではありません。

孤独・孤立の問題について知識を身につけ、
身の回りの人に関心を持ち、
できる範囲で困っている人をサポートする人です。

孤独・孤立の問題は、生活環境や雇用環境の変化などで、
誰にでも起こり得ます。

まずは、孤独・孤立について正しく「知る」ことで、
孤独・孤立の問題を偏見なく「自分ごと」として捉えていくことが
大切です。



「つながりサポーター養成講座」とは？

孤独・孤立に関する知識を学び、
みんなで孤独・孤立について考える場所が「つながりサポーター養成講座」です。

ここにいる皆さん同士のつながりも大切にしながら、
「誰もが困ったときに気軽に声を上げられる・かけられる社会」の実現に向けて、
一緒に踏み出していきましょう。



孤独・孤立とは？

～孤独・孤立の何が問題か～

孤独・孤立とはどのような状態なのか？

なぜ、孤独・孤立は問題視されているのか？

社会的な背景や具体例を交えながら見ていきます。

ポイント

- つながりが薄くなっている「社会構造上」孤独・孤立状態が生まれやすくなっている現状があり、「自己責任」ではない
- 孤独・孤立の問題は「一人であること」ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまい、複雑化・深刻化すること

孤独・孤立とはどのような状態？

孤独・孤立とは、一般的には以下のように言われています。

「**孤独**」 **主観**的概念であり、ひとりぼっちと感じる精神的な状態を指し、寂しいこと
という感情を含めて用いられることがある

「**孤立**」 **客観**的概念であり、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態を指す

孤独と孤立は密接に結びついてますが、

孤立しているが孤独は感じていない

孤立していないが孤独を感じている

ということもあり得ます。

大事な点は、一人でいても、つながっても良いということ。

「一人でいること」自体が問題ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまうことで、
複雑化・深刻化するのが問題であるということです。

日常にある「つながり」

「気の合う人がある」「一緒に趣味に熱中できる友人がいる」「自分の活動を影ながら応援してくれる人がある」
私たちは日々の生活の中で、意識せずともさまざまな人とつながっています。

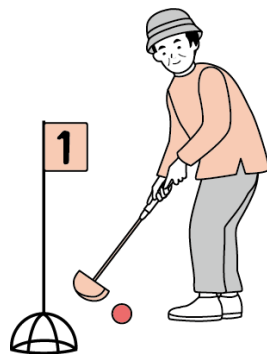
このような日常のつながりによって、悩みや困りごとが複雑化・深刻化することを予防できるかもしれません。

（例）日常にあるつながり

毎日仕事が忙しいけれど、
雑談できる人がある



地域の公園で毎週、
仲間たちとグラウンド・ゴルフ
を楽しむ



家に帰ったら「おかえり」と
言ってくれる人がある



共通の趣味を持った人が
集まるオンラインコミュニティに
参加していて、好きなこと
について話せる人がある



孤独・孤立に陥りやすい「つながりの薄い」社会

近年の社会環境の変化により、家族や地域、会社などとのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立に陥りやすい状況になっています。

この状況は、社会の変化によって生じており、個人の責任（自己責任）ではありません。

さらに、ソーシャルメディアを使って多くの人とオンラインでつながっていても、孤独・孤立状態にある場合もあります。

働き方の多様化
ワーキングプアの増加
企業福祉の縮小

会社とのつながり

雇用の保障や
手厚い福利厚生

過疎化や高齢化
地域組織の衰退

地域とのつながり

地域の互助組織や
支えあい

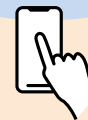
少子高齢化
単身世帯の増加

家族とのつながり

家族や親族などによる
援助

オンラインのつながり

SNSやチャット、
オンラインコミュニティ



（例）つながりの薄い人の声

低賃金で残業も多い。
いつまで仕事を
続けられるか不安

足腰の痛みで一人で
買い物に行くのが大変。
近所に頼める人もいない

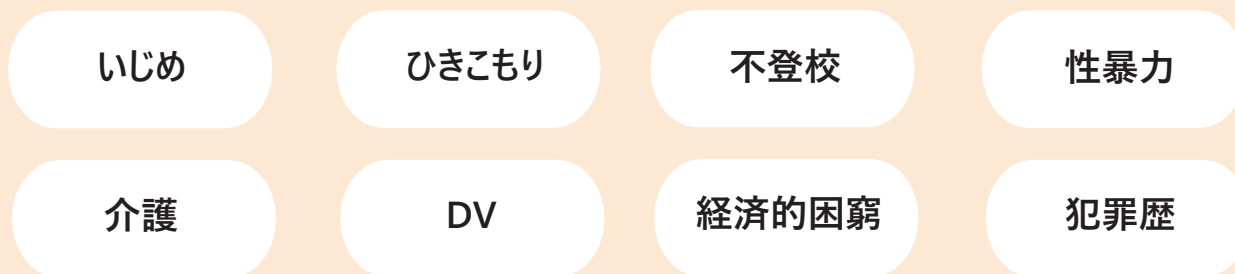
一人暮らしの親が
高齢になってきて心配だが、
相談できる親族がいない

孤独感を紛らわすため
SNSに毎日投稿している

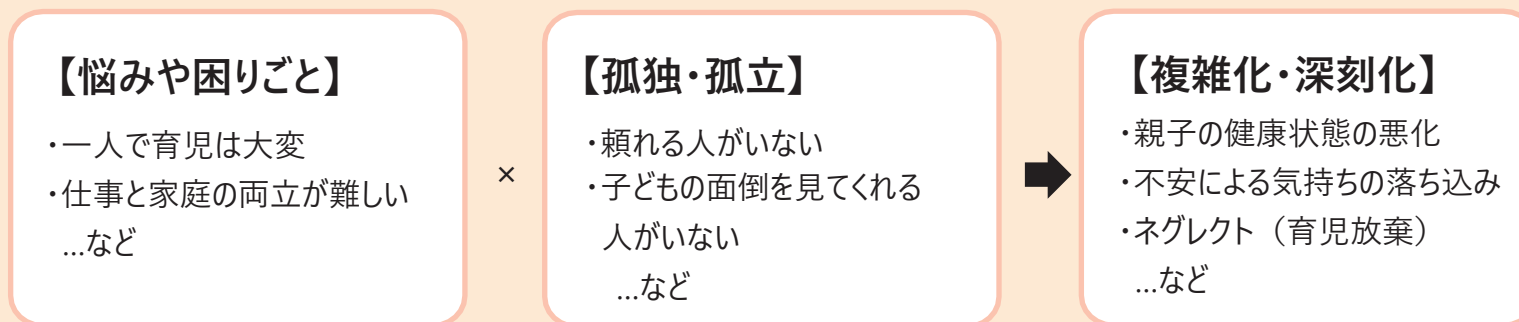
つながりの薄い社会では一人で声を上げづらい

つながりが薄い社会では悩みや困りごとが生じた際、**一人で声を上げづらく、抱えこんでしまうことがあります。**

一人で声を上げづらい状況の例



悩みや困りごとが複雑化・深刻化する例：子育て



「孤独・孤立の何が問題か」

ポイント

- つながりが薄くなっている「社会構造上」孤独・孤立状態が生まれやすくなっている現状があり、「自己責任」ではない
- 孤独・孤立の問題は「一人であること」ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまい、複雑化・深刻化すること

孤独・孤立とは？

～つながりを考えてみよう～

あなたの日々の「つながり」は？
いくつかの質問に答えながら、
周囲とのつながりについて考えてみましょう。

つながりを考えてみよう

問1

あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある
-

問2

あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある
-

問3

あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある
-

丸をつけた数値の合計点を計算してください。

点

つながりを考えてみよう

家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についてお尋ねします。あなたと同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度は、次のうちどれがあてはまりますか？
○をしてください。

問 4

週4～5回 以上	週2～3回 程度	週1回程度	2週間に1回 程度	月1回程度	月1回未満	全くない

孤独・孤立とは？

～調査結果からわかること～

回答いただいた質問4つは、実は令和4年に行われた全国調査「人々のつながりに関する基礎調査（内閣官房 孤独・孤立対策担当室）」の質問内容と同じものになっています。
その調査結果に関して、いくつかポイントをご紹介します。

ポイント

- つながりが薄い社会では、孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうる
- 支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいる
- 相談できる人が身近にいること自体が、孤独感を和らげることにつながる



孤独・孤立とは？ 調査結果からわかること

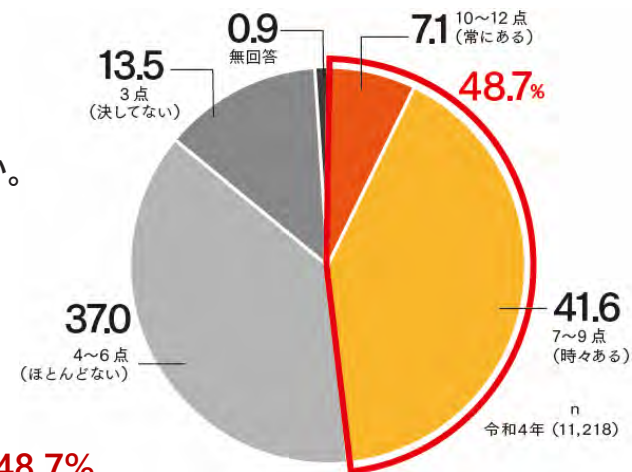
約4～5割の人が孤独を感じている

問1～3

- ①あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。
 ②あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。
 ③あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 決してない | 3. 時々ある |
| 2. ほとんどない | 4. 常にある |

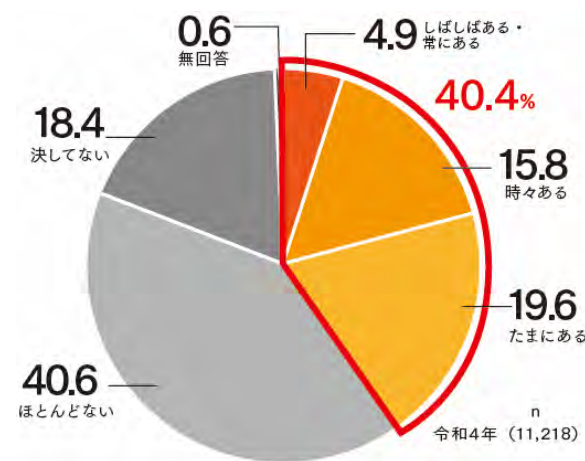
・孤独感が「10～12点（常にある）」「7～9点（時々ある）」の人が**48.7%**



あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 決してない | 4. 時々ある |
| 2. ほとんどない | 5. しばしばある・常にある |
| 3. たまにある | |

・孤独感が「しばしばある・常にある」「時々ある」「たまにある」人が **40.4%**



※問1～3は「UCLA孤独感尺度」に基づく質問であり、3つの設問への回答点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価している。
 「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査では「間接質問」と呼称する。これに対し、孤独感を直接的に把握している質問を「直接質問」と呼称する。

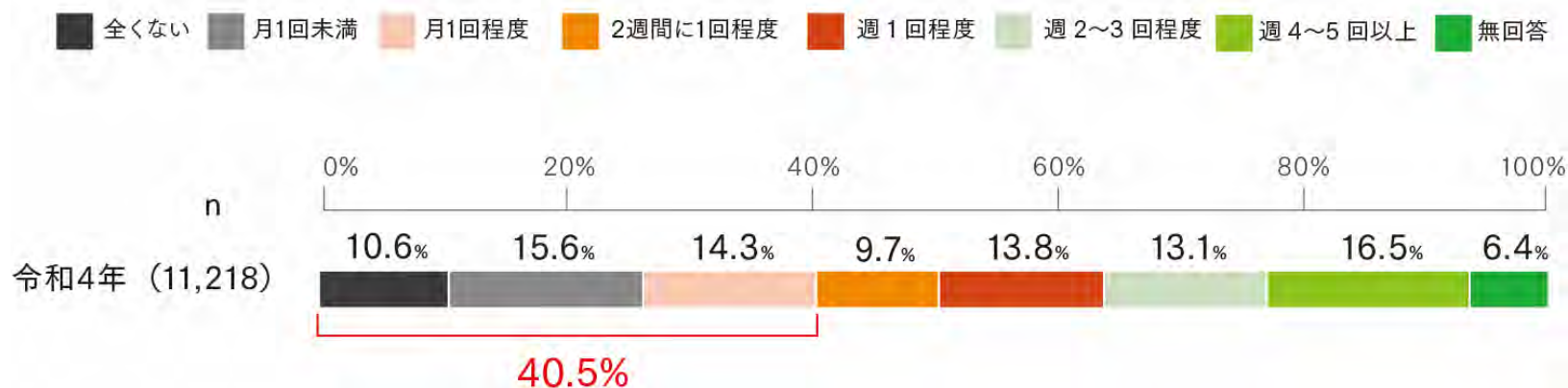


孤独・孤立とは？ 調査結果からわかること

同居していない家族や友人との会話は、 「全くない」が約 1 割、「月に 1 回程度以下」が約 4 割

問 4

同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度は？



- ・「直接会って話すことが全くない」人が**約1割**
- ・「月に1回程度以下（※）」の人が**約4割**

※「全くない・月1回未満・月1回程度」と回答した人を「月に1回程度以下の人」としています



孤独・孤立とは？ 調査結果からわかること

調査結果のポイント

各ポイントの詳しいデータはp34～

① 孤独感に影響を与える出来事はライフステージのあらゆる場面で起こりうる

「家族との死別」「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」「転校・転職・離職・退職（失業を除く）」など

② 相談相手がいないと、孤独感を抱える割合が高い

不安や悩みの相談相手が「いない」場合、「いる」人と比べて、孤独感を常に抱えている人が約5～6倍多い

③ 支援を受けていない理由、「受け方がわからない」「必要でない」がそれぞれ約4割

「必要でない」と回答した人の中には、ひとりで抱え込んでしまう人も多いだろうということが推測される

④ 約7割の人が「相談することで楽になる」と回答

⑤ 不安や悩みの相談相手は「家族」が約9割、「友人・知人」が約6割

「調査結果からわかること」

ポイント

- つながりが薄い社会では、孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうる
- 支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいる
- 相談できる人が身近にいること自体が、孤独感を和らげることにつながる

困ったときどうする？

ここまで「孤独・孤立とは？」というお話をしてきました。

では、自分や周囲の人が孤独・孤立状態に陥り、
悩みや困りごとを抱えたときには、どうしたらいいのでしょうか。

個人ワークを通して考えてみましょう。

ポイント

- 自分が困ったときの備えとして、ふだんから「誰に相談できるか」を考えておくこと、
「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが重要
- 周囲の人の悩みや困りごとには、「気にかける」「相談窓口につなぐ」など、
できる範囲で無理なくサポートすることが大切

困ったときどうする？

自分が困ったときはどうする？

以下の悩みや困りごとを抱えたとしたら、あなたはどのようにしますか？

問1

職場（地域）の集まりで嫌なことがあった。明日から行くのが気まずい。どうしよう？

問2

認知症の親の介護が大変で仕事ができない。どうしよう？

問3

失業して収入もなくなってしまった。貯金も尽きてしまう。どうしよう？

自分が困ったときはどうする？

「約7割の人が『相談することで楽になる』と答えた」という調査結果を紹介しましたが、
「誰に相談したらいいかわからない」と思われた方も少なくないのではないのでしょうか。

内容によっては「心配をかけたくないから相談しにくいな」と感じた方もいらっしゃるかもしれません。
身近な人に相談しにくい場合には、自治体などの相談窓口を活用することも大事です。

いざ自分が困ったときには、冷静に物事を考えられないことも多いです。
どうしたらいいか途方に暮れてしまうこともあるでしょう。

だからこそ、**ふだんからの備えとして「誰に相談できるか」を考えておくこと、
「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが大切です。**

また、日頃からいろんな人とつながっておくことも重要です。
近所のカフェに行く、商店街の催しに参加するなど、
日常的なつながりを意識して作ってみるのもできることの一つです。



周囲の人の悩みや困りごとには？

冒頭でお話したように「つながりサポーター」は、なにか「特別なことをする人」「しなければならない人」ではありません。

身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートすることが大切です。

たとえば、「相手のことを少し気にかける」「親身になって話を聞く」といった日常的な行動です。

そうした日常のつながりが、周囲の人の孤独感・孤立感を和らげ、悩みや困りごとが複雑化・深刻化するのを防ぐことにつながるかもしれません。

一方で、自分自身が辛くなってしまうように、無理なくサポートするという意識も大切です。相手の悩みや困りごとを自分だけで抱え込んで解決しようとせず、相談窓口を頼りましょう。

悩みや困りごとが複雑化・深刻化する例：子育て

【悩みや困りごと】

- ・一人で育児は大変
- ・仕事と家庭の両立が難しい
- ...など

×

【孤独・孤立】

- ・頼れる人がいない
- ・子どもの面倒を見てくれる人がいない
- ...など



【複雑化・深刻化】

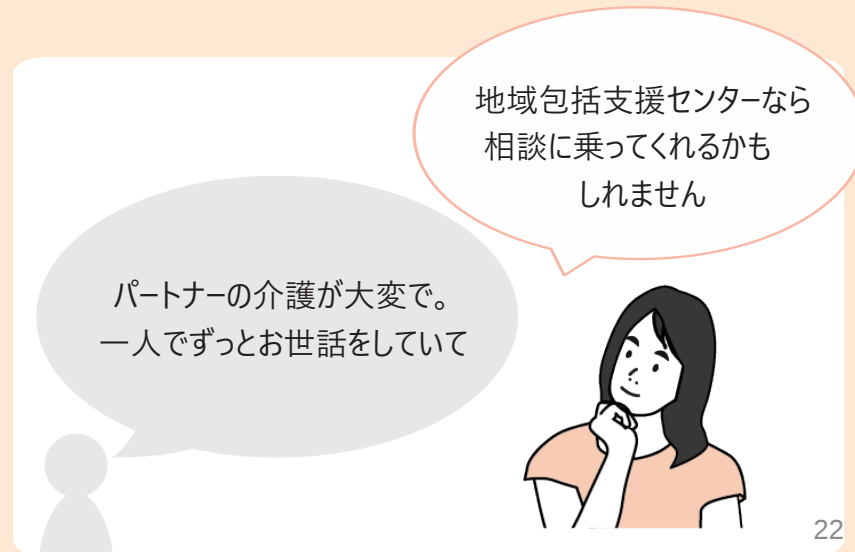
- ・親子の健康状態の悪化
- ・不安による気持ちの落ち込み
- ・ネグレクト（育児放棄）
- ...など

周囲の人の困りごとには？

(例) 気にかける



(例) 地域活動や相談窓口につなぐ



「困ったときどうする？」

ポイント

- 自分が困ったときの備えとして、ふだんから「誰に相談できるか」を考えておくこと、「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが重要
- 周囲の人の悩みや困りごとには、「気にかける」「相談窓口につなぐ」など、できる範囲で無理なくサポートすることが大切

相談窓口を知ろう

自分や周囲の人が、孤独・孤立状態で悩みや困りごとを抱えたとき。

あなたの周りには、その悩みや困りごとに応える

さまざまな相談窓口があります。

ここからは、どのような相談窓口があるのか把握していきましょう。



地域の相談窓口は？

あなたの住んでいる地域の相談窓口について考えてみましょう。

以下の悩みや困りごとを抱えた際、どのような相談窓口が思い浮かびますか？

▼住まいがなくなった

▼借金のこと困っている

▼子育てで悩んでいる

▼親の介護について相談したい

▼つらい、死にたい、消えてしまいたい

相談窓口を知ることから始めよう

いくつかの相談窓口が思いつきましたか？

まずは、地域の相談窓口を知ることから始めていきましょう。

自分や周囲の人が悩みや困りごとを抱えたとき、頼れる先を知っていること自体が不安感の解消につながったり、悩みや困りごとの深刻化を防ぐことにもつながります。

次のページから相談窓口を紹介しています。

自分だけで抱え込まず、適切な窓口を活用してみてください。

相談窓口リストはp27へ



相談窓口リスト

〇〇では、以下のような相談窓口を設置しています。

【相談窓口】

▼（悩みや困りごと）ダミー。お金や生活に困っている
（場所）ダミー。生活自立相談支援センター
（連絡先）ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼ダミー。子育てで悩んでいる
ダミー。子育て世代包括支援センター
ダミー。お住まいの地区を担当する窓口にお問い合わせください

▼（悩みや困りごと）
（場所）
（連絡先）

▼（悩みや困りごと）
（場所）
（連絡先）

▼ダミー。介護について相談したい
ダミー。地域包括支援センター
ダミー。お住まいの地域を担当する地域包括支援センターへ電話または直接窓口にお問い合わせください

▼ダミー。つらい、死にたい、消えてしまいたい
ダミー。障害保健福祉課
ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00
（土日祝年末年始休み）

【オンラインの相談窓口】

（名称）ダミー。まもろうよこころ
（連絡先）ダミー。000-000-0000
ダミー。月～金曜日／ 9:00 ～ 16:00



（名称）
（連絡先）



全国で利用できる相談窓口・支援制度は？

全国で利用できる相談窓口・支援制度にはどのようなものがあるか、把握しておきましょう。

悩みや困りごとのある方へ
＜まもろうよ ころ＞
(厚生労働省)



学校でのいじめ等の悩みを
相談したいと思ったら
＜24時間子供 SOSダイヤル＞
(文部科学省)



性犯罪・性暴力の被害について
相談したいとき
＜性犯罪・性暴力被害者のための
ワンストップ支援センター＞
(内閣府)



あなたに合った
相談窓口・支援制度と
つながれるチャットボット
＜あなたはひとりじゃない＞
(内閣官房孤独・孤立対策
担当室)



児童虐待かと思ったら
＜児童相談所・児童相談所
虐待対応ダイヤル＞
(こども家庭庁)



配偶者等からの
暴力（DV）かと思ったら
＜DV相談ナビ＞
(内閣府)



悩みや困りごとを抱える人にこのような相談窓口や支援制度を紹介して、頼るよう促したり、一緒に窓口に行ったりすることも、サポーターにできることの一つです。

地域活動を知ろう



地域ではどのような活動が行われているのでしょうか。
主な地域活動をご紹介します。



地域活動を知ろう

〇〇市では、以下のような地域活動を行なっています。

▼（活動名・団体名）ダミー。みんなでつくろう子どもの居場所
（活動内容）子ども教室の運営
（連絡先）各区社会福祉課

▼（活動名・団体名）ダミー。町内会
（活動内容）
（連絡先）

▼（活動名・団体名）ダミー。民生委員
（場所）
（連絡先）

▼（活動名・団体名）ダミー。公民館活動
（場所）
（連絡先）

▼（活動名・団体名）ダミー。ボランティア活動
（場所）
（連絡先）

▼（活動名・団体名）ダミー。サークル活動
（場所）
（連絡先）

▼（活動名・団体名）ダミー。居場所活動
（場所）
（連絡先）

▼（活動名・団体名）
（場所）
（連絡先）

最後に

※テンプレート

※受講者へのメッセージや、そのほかの孤独・孤立の取り組みについて記載がございましたら以下の例を参考に編集ください

改めて、大事な点は「一人でいても、つながっても良い」ということです。
孤独であること、孤立していること自体は決して悪いことではありません。
問題なのは、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまうことで、複雑化・深刻化してしまうことです。

〇〇では、〇〇市官民連携プラットフォームを〇年〇月に立ち上げました。
××個の民間団体等との連携・協働により、孤独・孤立対策の取り組みとして、
〇〇のような事業を始めています。

こうした取り組みを進めていくことで、誰もが困ったときに気軽に声を上げられる・かけられる社会、相互に支え合い人と人との「つながり」が生まれる社会に近づいていくと考えています。

この講座にご参加いただいたみなさんとも、ぜひ引き続き一緒に取り組んでいけると嬉しいです。

参考資料

各分野の実践的な養成講座

孤独・孤立の問題に関わる実践的な養成講座には、例えば以下のようなものがあります。

認知症サポーター養成講座

講師役である「キャラバン・メイト」が、地域や職域団体等を対象に、認知症の知識や、つきあい方について講義を行う



あいサポート運動（あいサポーター研修）

障がいの特性や必要な配慮などを理解して、障がいのある方を手助けする「あいサポーター」を養成する



精神・発達障害者しごとサポーター養成講座

精神・発達障害についての知識と理解を持って、精神・発達障害者を温かく見守り、支援する応援者を育成する



心のサポーター養成研修

知識と理解に基づき、家族や同僚など身近な人に対して、傾聴を中心とした支援を行う「心のサポーター」を養成する



ゲートキーパー養成講座

地域や職場、教育の現場でメンタルヘルスを学び、自殺のサインに気づき、見守り、専門の相談機関につなぐ役割を担う「ゲートキーパー」を養成する



ひきこもりサポーター養成講座

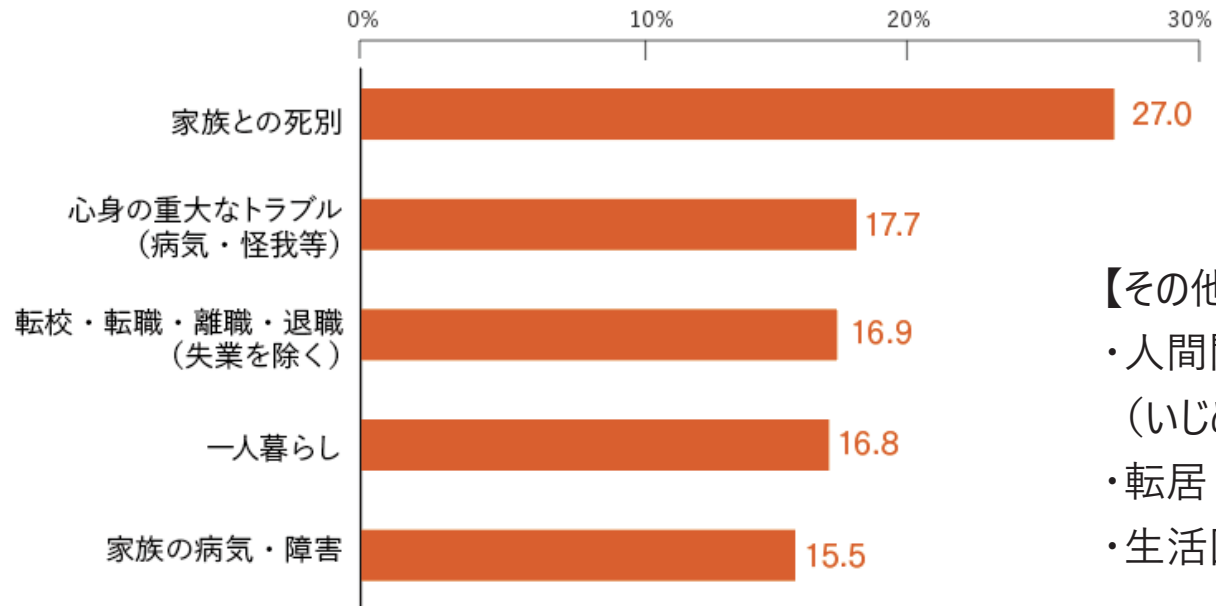
ひきこもりの状態にある方及びその家族に対し社会参加に向けて継続的に関わりをもち、ともに活動したり、適切な支援先につないだり、ひきこもりに対する理解促進を深める活動を行う「ひきこもりサポーター」を養成する



調査結果のポイント①

孤独感に影響を与える出来事はライフステージのあらゆる場面で起こりうる

現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事（複数回答）



【その他】

- ・人間関係による重大なトラブル
(いじめ・ハラスメント等を含む)
- ・転居
- ・生活困窮・貧困 ...など

※本グラフは孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」又は「たまにある」と回答した人の「現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事」から上位5つを抜き出して編集しています

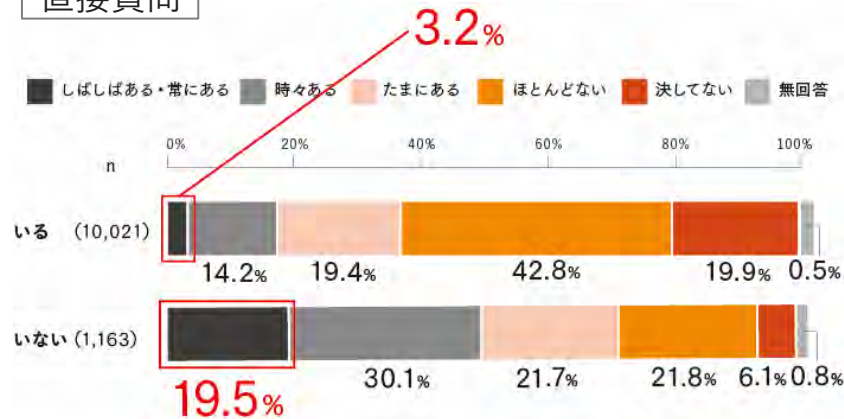


調査結果のポイント②

相談相手がいないと、孤独感を抱える割合が高い

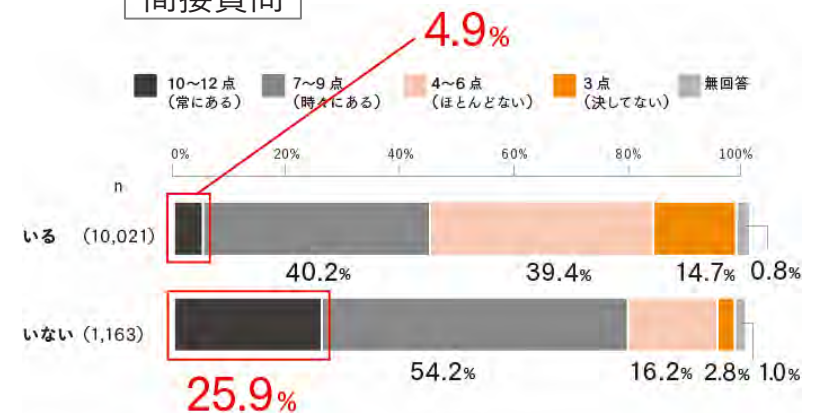
不安や悩みの相談相手がいる人、いない人の孤独感は？

直接質問



- ・いる人「しばしばある・常にある」が**3.2%**
- ・いない人「しばしばある・常にある」が**19.5%**

間接質問



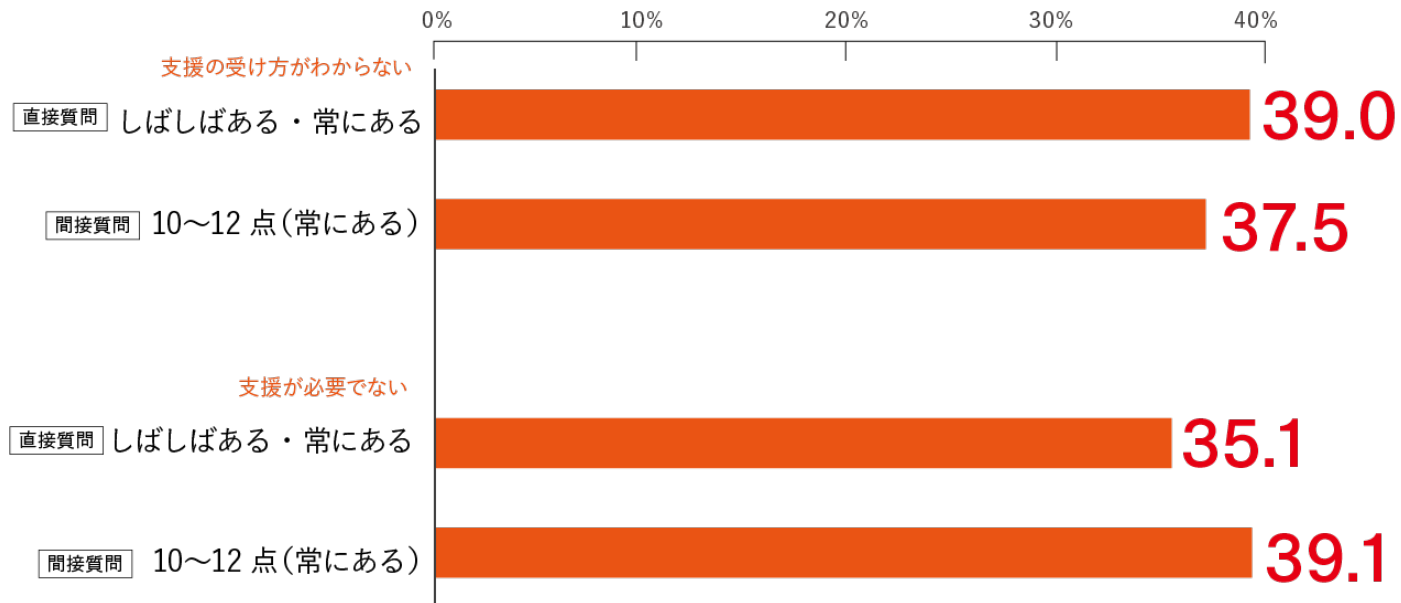
- ・いる人「常にある」が**4.9%**
- ・いない人「常にある」が**25.9%**



調査結果のポイント③

支援を受けていない理由、
「受け方がわからない」「必要でない」がそれぞれ約4割

行政機関やNPO等の民間団体からの支援を『受けていない』人の理由は？（複数回答）



- ・孤独感が「しばしばある・常にある」人の約4割が「支援の受け方がわからない」と回答
 - ・孤独感が「しばしばある・常にある」人でも、約4割が「支援が必要ではないため」と回答
- その中には、ひとりで抱え込んでしまう人も多いだろうということが推測される

※本グラフは「行政機関やNPO等の民間団体からの支援を『受けていない』人の理由」から「受け方がわからないため」「支援が必要でないため」という理由を抜き出して編集しています



調査結果のポイント④

約7割の人が「相談することで楽になる」

不安や悩みを相談することへの感情は？（複数回答）

		n	相談すること で解決でき、 または解決の 手掛かりが得られる	相談すること で解決しなくとも 気持ちが楽になる	相手に連絡を取ることもや、 不安や悩みを説明するの が面倒である	相談することが恥ずかしい	相談すると相手の負担になる	相談しても無駄である (相談しても解決しない)	その他	無回答
	全体	11,218	55.7	71.9	7.9	5.3	9.3	10.5	2.9	1.7
直接質問	しばしばある・常にある	549	25.0	48.1	18.0	16.6	25.1	42.8	7.8	2.4
	時々ある	1,777	40.2	66.2	13.2	9.3	16.0	19.0	3.0	1.7
	たまにある	2,204	50.0	76.1	10.5	7.5	12.6	10.8	2.9	1.5
	ほとんどない	4,552	61.8	75.5	5.4	3.1	6.0	6.0	2.1	1.6
	決してない	2,069	70.3	71.5	3.4	1.5	3.4	4.2	2.9	1.7
間接質問	10～12点（常にある）	801	27.6	49.9	20.1	15.5	23.5	38.1	6.6	2.1
	7～9点（時々ある）	4,665	47.5	71.9	10.7	7.7	13.0	13.1	2.7	1.6
	4～6点（ほとんどない）	4,146	64.3	75.6	4.4	2.2	4.9	5.3	2.3	1.4
	3点（決してない）	1,509	72.8	75.3	2.5	1.2	2.7	2.4	2.5	1.9

「相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」と答えた人が**約7割**



調査結果のポイント⑤

相談相手は「家族」が約9割、「友人・知人」が約6割

不安や悩みの相談相手の種類は？（複数回答）

	n	家族・親族	友人・知人	自治会・町内会・近所の人	仕事・学校関係者 （職場の同僚・学校の先生等）	行政機関（国や自治体）	NPO等の民間団体・ ボランティア団体	社会福祉協議会	病院・診療所の医師	テレビ、ラジオ、 新聞等の相談コーナー	その他	わからない（相談窓口の 運営者が不明な場合を含む）	無回答
全体	10,021	90.8	62.5	5.6	23.2	3.4	0.7	2.0	13.9	0.3	2.1	0.4	0.1

「家族・親族」と答えた人が約9割と最も多く、「友人・知人」(約6割)、
「仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）」(約2割)と続く

※本グラフは「不安や悩みの相談相手の種類」の回答から全体の回答結果を抜き出して編集しています

※テンプレート

**講座の感想やご意見は
こちらで受け付けています**

運営事務局：
連絡先：

相談窓口リスト

〇〇では、以下のような相談窓口を設置しています。

【相談窓口】

▼（悩みや困りごと）ダミー。介護休暇について
（場所）ダミー。総務課
（連絡先）ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼ダミー。ハラスメントについて
ダミー。総務課
ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼ダミー。育児休暇について
ダミー。総務課
ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼ダミー。メンタルヘルスについて
ダミー。総務課
ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼（悩みや困りごと）
（場所）
（連絡先）

▼（悩みや困りごと）
（場所）
（連絡先）

【オンラインの相談窓口】

（名称）ダミー。まもろうよこころ
（連絡先）ダミー。000-000-0000
ダミー。月～金曜日／ 9:00 ～ 16:00



（名称）
（連絡先）



相談窓口リスト

〇〇では、以下のような相談窓口を設置しています。

【相談窓口】

▼（悩みや困りごと）ダミー。学生生活上の様々なトラブル
（場所）ダミー。学生生活課
（連絡先）ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼ダミー。ジェンダー・セクシュアリティについて
ダミー。学生生活課
ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼ダミー。学業に関する悩みについて
ダミー。学生生活課
ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼ダミー。メンタルヘルスについて
ダミー。学生生活課
ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼（悩みや困りごと）
（場所）
（連絡先）

▼（悩みや困りごと）
（場所）
（連絡先）

【オンラインの相談窓口】

（名称）ダミー。まもろうよころ
（連絡先）ダミー。000-000-0000
ダミー。月～金曜日／ 9:00 ～ 16:00



（名称）
（連絡先）



つながりサポーター養成講座
講師用テキスト
(令和5年度 試行実施用)

目次

1. はじめに.....	3
つながりサポーター養成講座実施の背景と目的.....	3
つながりサポーター養成講座の位置付け.....	4
養成講座教材.....	5
2. 養成講座の留意事項.....	7
3. 標準テキストの留意事項と解説例.....	9
1. はじめに.....	11
2. 孤独・孤立の何が問題か.....	15
3. つながりを考えてみよう.....	21
4. 調査結果からわかること.....	24
5. 困ったときどうする？.....	30
6. 相談窓口を知ろう.....	36
7. 地域活動を知ろう.....	41
8. 最後に.....	43
参考資料.....	44

1. はじめに

つながりサポーター養成講座実施の背景と目的

現在社会では、単身世帯の増加や働き方の多様化などにより、家族や地域、会社などとのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立状態に陥りやすい状況になっています。孤独・孤立状態になると、最初は小さな悩みや困りごとであったものが、一人で抱えこんでしまうことで複雑化・深刻化することがあります。このような現代社会の実情を背景に、政府は令和3年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」を策定し、令和5年5月には「孤独・孤立対策推進法（令和6年4月施行）」が成立しました。

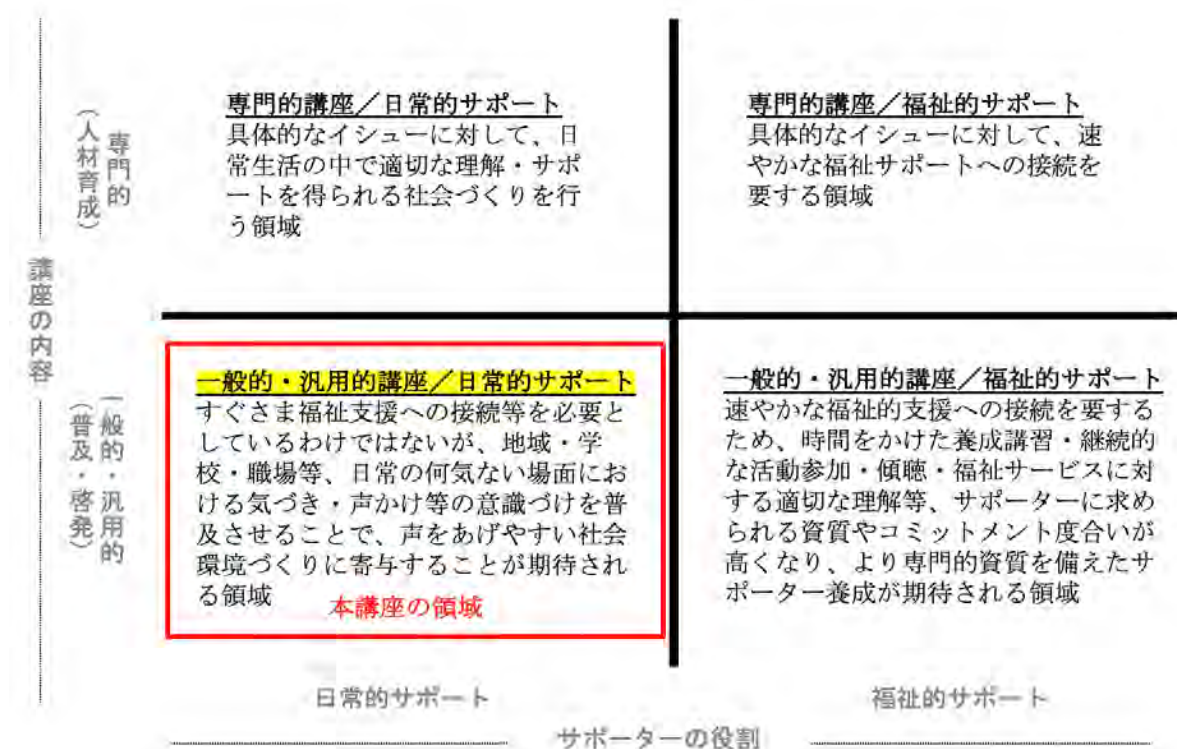
孤独・孤立対策推進法では、「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」「相互に支え合い、人と人との『つながり』が生まれる社会を目指すこと」とされており、これらを実現するための基本的施策として以下の3点が掲げられています。

- 孤独・孤立対策に関する国民の理解の増進、多様な主体の自主的活動に資する啓発
- 相談支援の推進
- 当事者等への支援を行う人材の確保・養成・資質向上

本養成講座は、本基本施策を実現するために「つながりサポーター」を養成することを目的とした講座です。

つながりサポーター養成講座の位置付け

孤独・孤立に関連する領域（自殺やひきこもりなど）のサポーター養成講座として「ゲートキーパー養成講座」や「ひきこもりサポーター養成講座」などがすでに存在します。それらの近接する領域のサポーター制度を踏まえた上で、「つながりサポーター養成講座」の位置付けを下図のとおり整理しています。



上図の整理の通り、「つながりサポーター養成講座」は、受講者の対象を幅広く設定し、普段から福祉に携わっている方だけでなく、専門的知識をもたない国民全般も対象とし、専門家を育成するのではなく、日常の何気ない場面での気づきや声かけ等の意識づけを促し、声を上げやすい社会環境づくりをしていくための普及・啓発を主たる目的としています。

養成講座教材

教材として以下の3点を作成しています。

- 標準テキスト
- 受講証
- 講師用テキスト（本資料）

養成講座標準テキスト

構成

標準テキストは以下の目次で構成されており、60分間の講座を目安に作成しています。

目次

no	項目	ページ番号	時間目安
1	はじめに	p1～3	5分
2	孤独・孤立の何が問題か	p4～9	13分
3	つながりを考えてみよう	p10～12	5分
4	調査結果からわかること	p13～17	8分
5	困ったときどうする？	P18～23	12分
6	相談窓口を知ろう	p24～28	12分
7	地域の活動を知ろう	P29～30	3分
8	最後に	P31	2分
	参考資料	p32～38	

前半では、「孤独・孤立とは何か？」という基本的な知識に加えて、誰もが孤独・孤立に陥りやすくなっている社会背景、身近にある孤独・孤立状態の例、孤独・孤立に関する調査データを紹介しています。孤独・孤立は社会構造上発生しており、個人の責任（自己責任）ではないということを説明するとともに、他人事でなく自分自身または身近なところで発生している問題であることを解説しています。

後半では、個人ワークを取り入れながら自分、そして周囲の人が悩みや困りごとを抱えたときにできることを考えてもらいます。さらに具体的な行動例を示すことで基本的な対応を学ぶとともに、対応する相談窓口や地域活動を紹介しています。

使用方法

A4サイズとなっており、スクリーンなどの投影、かつ印刷（両面/片面/2アップ）またはデータにて共有した上で講座を受けることを想定して作成しています。

資料印刷（プリントアウト）、冊子印刷など、印刷の形式については実施主体にてご判断ください。

相談窓口の一覧などは各実施主体の実情に合わせて追記していただく必要があります。追記していただきたい箇所については、「標準テキストの留意事項と解説」の項にて詳細をご説明します。

仕様

- サイズ：A4サイズ（縦210mm、横297mm）
- 印刷時に白枠が出ることがありますが、白枠付きで支障のない仕様になっています。

- 著作権：テキスト内の画像等は自由に利用可能。ただし出典を明記。

受講証

構成

裏面に相談窓口リストを記載しています。

使用方法

名刺サイズとなっており、財布や名刺ケースに入れて持ち歩いていただきやすいサイズで作成しています。

裏面の相談窓口リストは、各実施主体にて更新していただくものです。標準テキストのスライド27「相談窓口リスト」と対応しています。テンプレートとして、自治体、企業、学校用を準備していますので適宜ご活用ください。

仕様

- サイズ：名刺サイズ（縦55mm、横91mm）（塗り足しあり）
- 著作権：テキスト内の画像等は自由に利用可能。ただし出典を明記。

講師用テキスト

本資料です。つながりサポーター養成講座の講師となつていただく方向けに作成しています。

2. 養成講座の留意事項

以下の点に留意の上、講座を実施してください。

受講者を募集する際の留意事項

つながりサポーター養成講座は普及・啓発を主たる目的としています。「支援人材の育成を目的とする講座ではなく、まずは孤独・孤立の問題や日常的サポートについて知っていたく講座である」という点は、受講者との間に認識の違いが生じないように、あらかじめお伝えください。

講師の留意事項

1. つながりサポーターは、悩みや困りごとを解決するのではなく、つながることで孤独・孤立を和らげ、悩みや困りごとの複雑化・深刻化を防ぐ。
標準テキストのスライド2には、つながりサポーターとは以下のように記載されています。

「つながりサポーターは「何か特別なことをする人」「しなければならない人」ではありません、孤独・孤立の問題について知識を身につけ、身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートする人です。」

つながりサポーターに求められるのは、悩みや困りごとを直接解決することではありません。悩みや困りごとを抱える人とつながることで、孤独・孤立を和らげ、悩みや困りごとが複雑化・深刻化することを予防することです。この点を念頭において講座を進めていただきたいと思います。

2. サポーター自身が辛くなってしまうように「可能な範囲」を意識し、「相談窓口」を活用する。
悩みや困りごとを抱える人の対応をしていると、サポーター自身もその辛さ・大変さに共感してしまい、辛くなってしまう場合や、重すぎる悩みを一人で抱えこんでしまう場合があります。大事なことはサポーター自身も「可能な範囲」で対応すれば良いこと、一人で抱えこんでしまう前に専門家の相談窓口を利用することです。
3. 当事者性の高い受講者がいる可能性があることを想定する。
受講者の中には、過去に辛い経験をしたり、その経験を克服したからこそ、近しい悩みを抱える人の役に立ちたいと思い受講してくれる受講者もいます。標準テキストの個人ワークでは、「自分が困ったときどうする？」というワークもあり、受講者の状況によっては、辛い経験を思い出してしまう受講者もいるかもしれません。
辛い経験を糧に参加してくることに敬意を示すとともに、配慮のある言葉遣いが講師には求められます。標準テキストの解説例については、3章に記載していますので参考してみてください。

4. 専門的なスキルは他養成講座で学ぶものとする。
「相手の困りごとを具体的に聞き取り、最適な相談窓口につなぐ」「困りごとを抱えた相手に配慮してコミュニケーションをとる」などの専門的なスキルについては、本資料p4の図で整理した「専門的講座」「福祉的サポート」の養成講座で学ぶ領域となります。
受講者より「具体的なアクションについてもっと知りたい」といった声が寄せられた際は、次のステップとして他養成講座をご紹介ください。（他養成講座について、詳しくはスライド33の参考資料に記載しています）

5. 横のつながりをつくる機会を設ける場合は、受講者に配慮した上で行う。

本講座の内容に加えて、受講者同士の横のつながりをつくる機会として、振り返りの時間や意見交換会、ケーススタディなどを設けていただくことも可能です。

こうした機会を設ける場合は、「孤独・孤立について人と話すことに負担のない方を対象とする」「参加された方が嫌な気持ちにならないよう気を配る」など、受講者に配慮した上で行なっていただければと思います。

実施体制の留意事項

本講座は、講師になっていただく方に特別な能力や専門性を求めない内容になっています。どなたでも講師を務めることができる構成としております。一方で、実施主体によっては、受講者にとっての聞きやすさの観点から、複数名で実施していただくことも有効と考えられます。

【2名での実施例】

- ① スライド1～23（はじめに～困ったときどうする？）までは、孤独・孤立の問題や当事者の抱える困りごとに詳しい方が担当する
- ② スライド24（相談窓口を知ろう）からは、孤独・孤立の問題を含む地域の窓口や活動など、講座実施主体の地域の実情に詳しい方が担当する

3. 標準テキストの留意事項と解説例

本章では標準テキストの章ごとの時間配分の目安、留意事項および各スライドにおける解説例を示しています。解説例はあくまでも「例」ですので、ご自身の言葉で解説していただいて構いません。参考としてご活用ください。

なお、講座を始める前の「アイスブレイク」に関しては、以下の理由から標準テキストには入れていません。

- アイスブレイクの内容は、実施先の状況（受講者の属性や所属する社会集団、講師の属性、講師と受講者の関係性など）によって大きく左右されるものであり、標準化することが困難なため
- たとえば「日常のつながりを考えてみよう」といったアイスブレイクを行なった場合、受講者に「自分にはつながりがない。孤独だ」というスティグマを形成してしまう恐れがあるため

実施主体において必要と判断された場合、アイスブレイクを行っていただくことは差し支えございませんが、受講者がスティグマ等を抱えることのないよう必要な配慮を行うなど、実施の際にはご留意いただくようお願いします。

その上で、こちらもあくまで参考となりますが、スティグマを形成しないアイスブレイクの考え方には以下のようなものがあります。

【講師が自分自身の孤独感について可能な範囲で話すことで、受講者に自分ごととして考えていただくきっかけとする】

孤独は主観の概念であり、人それぞれ捉え方が異なる（「こういった人が孤独です」とは客観的に断定できない）。その点を踏まえた上で、講師自身の場合（孤独を感じる瞬間や、孤独を感じた出来事など）を可能な範囲で開示する。あくまで自分の話のみにとどめ、受講者に自分ごととして考えていただくきっかけとする。

【受講者に「個人によって孤独の捉え方は違う」ということについて理解していただく】

(以下、特定非営利活動法人あなたのいばしょ「孤独予防教育プログラム」より)

- ① 受講者に孤独を連想させる写真を見ていただく
- ② 目を瞑っていただき、何番の写真が最も孤独を感じるのか、手を挙げて答えていただく
- ③ 受講者に回答結果のばらつきを伝え、個人によって孤独の捉え方は違う（孤独は主観の概念である）ということを理解していただく

(参考スライド)

「孤独」と聞いて連想する写真を1枚選んでください



(出所：特定非営利活動法人あなたのいばしょ「孤独予防教育プログラム」より)

1. はじめに

目的	「つながりサポーター」の背景・目的を理解する。
時間目安	5分
留意事項とポイント	- 孤独・孤立状態になると、最初は小さな悩みや困りごとであったものが、一人で抱えこんでしまうことで複雑化・深刻化することがあること。 - つながりサポーターとは、孤独・孤立の問題について知識を身につけ、身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートする人であること。

スライド1：

孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会を目指して

はじめに

孤独・孤立に悩む人を 誰ひとり取り残さない社会を目指して

いまの社会は、単身世帯の増加や働き方の多様化などにより、家族や地域、会社などとのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立状態に陥りやすい状況になっています。

孤独・孤立状態になると、最初は小さな悩みや困りごとであったものが、一人で抱えこんでしまうことで複雑化・深刻化することがあります。

こうした状況に対応するため、政府は2021年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」を策定し、2023年5月には「孤独・孤立対策推進法」が成立しました。

孤独・孤立対策推進法の下で、「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」「相互に支え合い、人と人との『つながり』が生まれる社会」を目指していきます。

はじめに、「つながりサポーター養成講座」が実施されることになった背景や「つながりサポーター」とは何か、という点について説明させてください。

今の社会は単身世帯の増加や働き方の多様化などにより、家族や地域、会社などとのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立状態に陥りやすい状況になっています。

孤独・孤立状態になる、最初は小さな困りごとであったものが、周囲に助けを求めることが難しく一人で抱えこんでしまうことで、複雑化・深刻化してしまうことがあります。

こうした状況に対応するために、政府は2021年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」を策定し、2023年5月には「孤独・孤立対策推進法」が成立しました。孤独・孤立対策推進法のもとで「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」「相互に支え合い、人と人との

『つながり』が生まれる社会」を目指していくために、政府はさまざまな活動を行なっていて、その担い手として「つながりサポーター」の育成を進めています。

はじめに

「つながりサポーター」とは？

「つながりサポーター」は、なにか「特別なことをする人」
「しなければならない人」ではありません。

孤独・孤立の問題について知識を身につけ、
身の回りの人に興味をもち、
できる範囲で困っている人をサポートする人です。

孤独・孤立の問題は、生活環境や雇用環境の変化などで、
誰にでも起こり得ます。
まずは、孤独・孤立について正しく「知る」ことで、
孤独・孤立の問題を偏見なく「自分ごと」として捉えていくことが
大切です。



つながりサポーターは「何か特別なことをする人」「しなければならない人」ではありません。孤独・孤立の問題について知識を身につけ、身の回りの人に興味をもち、できる範囲で困っている人をサポートする人のことです。

孤独・孤立の問題は生活環境の変化や雇用環境の変化など、ライフステージの変化によって誰にでも起こりうるものです。まずは孤独・孤立について正しく知ること、孤独・孤立の問題を偏見なく「自分ごと」として捉えていくことが大切だと私たちは考えています。

はじめに

「つながりサポーター養成講座」とは？

孤独・孤立に関する知識を学び、
みんなで孤独・孤立について考える場所が「つながりサポーター養成講座」です。

ここにいる皆さん同士のつながりも大切にしながら、
「誰もが困ったときに気軽に声を上げられる・かけられる社会」の実現に向けて、
一緒に踏み出していきましょう。



3

今回実施させていただく「つながりサポーター養成講座」とは何か？という点ですが、今までお話ししたように、孤独・孤立に関する知識を学び、みんなで孤独・孤立について考える場所が「つながりサポーター養成講座」です。

ここにいる皆さん同士のつながりも大切にしながら、「誰もが困ったときに気軽に声を上げられる、かけられる社会」の実現に向けて一緒に踏み出していければと考えています。

2. 孤独・孤立の何が問題か

目的	孤独・孤立についての「何が問題か」を正しく理解し、孤独・孤立状態にあることは自己責任ではないことを理解する。
時間目安	13分
留意事項とポイント	「一人であること自体」が問題でなく、悩みや困りごとが複雑化・深刻化してしまうことが問題。 - 悩みや困りごと自体を解決するのではなく、孤独・孤立を解消することで悩みや困りごとが複雑化することを予防する。

スライド4：孤独・孤立とは？～孤独・孤立の何が問題か～

孤独・孤立とは？ ～孤独・孤立の何が問題か～

孤独・孤立とはどのような状態なのか？
なぜ、孤独・孤立は問題視されているのか？
社会的な背景や具体例を交えながら見ていきます。

ポイント

- つながりが薄くなっている「社会構造上」孤独・孤立状態が生まれやすくなっている現状があり、**「自己責任」ではない**
- 孤独・孤立の問題は「一人であること」ではなく、悩みや困りごとが生じた際に**一人で抱え込んでしまい、複雑化・深刻化すること**

では、早速本編の内容をお話ししていきたいと思います。

まずは「孤独・孤立とはどのような状態」で「なぜ問題されているのか」という点に対して社会的な背景や具体例を交えながら見ていきたいと思います。

この章で主に学ぶのは、つながりが薄くなっている「社会構造上」孤独・孤立状態が生まれやすくなっている現状があり、「自己責任」ではないこと。孤独・孤立の問題は「一人であること」ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまい、複雑化・深刻化することです。

孤独・孤立とは？ 孤独・孤立の何が問題か

孤独・孤立とはどのような状態？

孤独・孤立とは、一般的には以下のように言われています。

「孤独」 **主観**的概念であり、ひとりぼっちとを感じる精神的な状態を指し、寂しいことという感情を含めて用いられることがある

「孤立」 **客観**的概念であり、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態を指す

孤独と孤立は密接に結びついています、

孤立しているが孤独は感じていない

孤立していないが孤独を感じている

ということもあり得ます。

大事な点は、一人でいても、つながっても良いということ。

「一人でいること」自体が問題ではなく、**悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまうことで、複雑化・深刻化するのが問題である**ということです。

「孤独・孤立」とは、一般的にはスライドに記載したように言われています。

孤独とは主観的な概念であり、ひとりぼっちとを感じる 精神的な状態を指し、寂しいことという感情を含めて用いられることがある、というふうに言われております。次に孤立とは客観的な概念であり、社会とのつながりや助けのない、または少ない状態を指す、このように言われております。

孤独と孤立は密接に結びついています「孤立しているが孤独は感じていない」や「孤立していないが孤独を感じている」といったこともあります。

大事な点は一人でいてもいいし、誰かとつながってもいいということです。一人でいること自体が問題というわけではなくて、困りごとが生じた際に一人で抱えこんでしまうことであり、悩みや困りごとが複雑化・深刻化するのが問題であるということです。ですので、孤独・孤立というものが何か個人のあり方を否定するものでなく、孤独・孤立に起因して様々な問題が発生してしまうという点を問題視しているということが重要な点となります。

孤独・孤立とは？ 孤独・孤立の何が問題か

日常にある「つながり」

「気の合う人がある」「一緒に趣味に熱中できる友人がいる」「自分の活動を影ながら応援してくれる人がある」
私たちは日々の生活の中で、意識せずともさまざまな人とつながっています。

このような日常のつながりによって、悩みや困りごとが複雑化・深刻化することを予防できるかもしれません。

（例）日常にあるつながり

毎日仕事が忙しいけれど、
雑談できる人がある



地域の公園で毎週、
仲間たちとグラウンド・ゴルフ
を楽しむ



家に帰ったら「おかえり」と
言ってくれる人がある



共通の趣味を持った人が
集まるオンラインコミュニティに
参加していて、好きなこと
について話せる人がある



6

孤独・孤立に対応するものとして「つながり」というものが重要なキーワードとなります。ここでは「日常のつながり」という点についてお伝えします。

例えば「気の合う人がある」や「一緒に趣味に熱中できる友人がいる」「自分の活動を影ながら応援してくれる人がある」私たちは日々の生活の中で意識せずとも、様々な人とつながっています。このようなつながりが複数あることで、悩みや困りごとが複雑化・深刻化することを予防できる可能性があります。

ここにいくつか日常にあるつながりの例を出しています。毎日職場で辛い仕事をしているというときに雑談できる人がある、これだけでも少し気が晴れる、そういうこともあるかもしれません。

地域の公園で、毎週仲間たちとグラウンド・ゴルフを楽しむ。グラウンド・ゴルフじゃなくてもフットサルやゲームでも良いと思います。一緒に楽しめる友人がいる。

家族が家に帰ったら「おかえり」と言ってくれる。これだけで仕事の疲れが和らぐこともあるでしょう。

最近では対面だけでなく、オンライン上のコミュニティも広がっています。実際に会ったことがなくとも、オンライン上で好きなことを話せる仲間がいる、こういったつながりも支えになったりします。

これらは、小さなことかもしれませんが、こういったつながりというのが、私たちにとって非常に重要であるということは皆さんも意識できるのではないのでしょうか。



一方で、近年の社会環境の変化によって、家族や地域、会社などとのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立に陥りやすい状況になっています。この状況を踏まえると孤独・孤立状態は自己責任から生まれるのではなく、つながりが薄くなっている社会構造に課題があると捉えることができると考えています。

このスライドでは、会社、地域、家族、オンラインのつながりについて記載しています。「会社とのつながり」でいうと、働き方が多様化したことにより、働いても十分な収入を得られない人「ワーキングプア」が増えたという課題。「地域のつながり」でいうと、地域によって住民の自治組織がたくさんあるという地域もあるかと思いますが、全国的には、過疎化や高齢化、地域組織の衰退といったことが課題としてあげられています。また、「家族とのつながり」でいえば、少子高齢化、単身世帯の増加、といったことが長年課題として言われていますが、一人でご両親の介護をして、困っているときに頼れる親族が身の回りにいないといった現状が見えてきます。

さらに、近年、X（エックス、旧ツイッター）やFacebook（フェイスブック）などの、オンライン上のつながりが増えており、一見するとつながっている人の数が多くなっているように見えますが、本人の心情を深掘してみると、「現実での孤独感を紛らわすために、毎日SNSに投稿している」といった背景が見えてくることもあります。つながりの量も大事なポイントの一つですが、つながりの質も同時に重要なポイントである、という点を押さえておく必要があります。

こうしたつながりの薄い社会は、近年の新型コロナウイルス感染拡大によってさらに深刻化しました。たとえば「会社とのつながり」では、休業やリモート化などで出社や同僚、上司と話す機会が減った人が増えました。「地域とのつながり」では、地域のこどもや高齢者

等の交流・見守りの場などが失われました。「家族とのつながり」では、家族と会ったり、話す機会が減ったりしました。

スライド8：つながりの薄い社会では一人で声を上げづらい



ここで大事ななのは「つながりが薄い社会では一人で声を上げづらい」ということです。もちろん、自分が辛いときに「ちょっと相談したい」「助けてほしい」と声を上げることができる人もいますが、「頼れる人がいない」といった状況においては、「助けを求めづらい」「一人で抱えこんでしまうことが多い」といったことが広く言われています。これには様々な状況があり得ると思います。

「自分のことを正しく理解してくれるのかな」「自分の気持ちを共有しても大丈夫かな」そういった不安感によって、助けを求めることができない、といった状況もあり得ます。

いじめやひきこもり、不登校、介護、DVや性暴力、経済的困窮など、具体的に様々な困りごとが発生した場合にも「誰かに話すのが恥ずかしい」「知られたくない」「心配かけたくない」という感情や「相談していい」と思える状況にないぐらい追い詰められてしまっている、といったように助けを求めるのが難しい状況があり得ます。

孤独・孤立というのは、それらの悩みや困りごとを掛け算のように複雑化・深刻化させてしまうことがあります。ここに子育ての例をあげていますが、一人で育児は大変だという悩みに対して、「頼れる人がいない」ということが掛け合わされると、健康状態が悪化したり、不安によって気持ちが落ち込んだり、子育てに大きな影響を及ぼしてしまうということが起こり得ます。

孤独・孤立とは？ 孤独・孤立の何が問題か

「孤独・孤立の何が問題か」

ポイント

- つながりが薄くなっている「社会構造上」孤独・孤立状態が生まれやすくなっている現状があり、**「自己責任」ではない**
- 孤独・孤立の問題は「一人であること」ではなく、悩みや困りごとが生じた際に**一人で抱え込んでしまい、複雑化・深刻化すること**

ここまで孤独・孤立の何が問題なのかということを考えてきました。重要なことは、つながりが薄くなっている「社会構造上」孤独・孤立状態が生まれやすくなっている現状があり、「自己責任」ではないという点、孤独・孤立の問題は「一人であること」ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱えこんでしまい、複雑化・深刻化することであるという点です。

3. つながりを考えてみよう

目的	自分自身の孤独・孤立に目を向け、自分ごと化して考える。
時間目安	5分
留意事項とポイント	• 選択肢によって「良い」「悪い」があるわけでない点を説明し、率直な意見を選択してもらう。 • 個人ワークであり発表する必要はない。 • 質問内容は「4. 調査結果からわかること」の内容に対応している。

スライド10：孤独・孤立とは？～つながりを考えてみよう～

孤独・孤立とは？ ～つながりを考えてみよう～

あなたの日々の「つながり」は？
いくつかの質問に答えながら、
周囲とのつながりについて考えてみましょう。

10

ここまで「孤独・孤立とは何が問題か」ということを見てきましたが、ここからはみなさん自身のことも含めて、周囲とのつながりについて考えていきたいと思います。

孤独・孤立とは？ つながりを考えてみよう

つながりを考えてみよう

問1 あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある

問2 あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある

問3 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある

丸をつけた数値の合計点を計算してください。

点

ここからは個人ワークとなります。

問1から次のページの間4まで質問があります。

問1は、「あなたは、自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。」

問2は、「あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。」

問3は、「あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。」です。あなた自身が今、どう感じているかという観点で選択してください。ご自身に該当する回答に丸をつけていただいて、最後にその数値の合計点を記入してみてください。

(参加者が書いている間に、問い2と問い3の違いをお話しする。)

なお、問2と問3は内容が似ていますが、問2は、主観的に見て（自分の気持ちとして）「自分は取り残されていると感じるか」。問3は、客観的に見て「自分は孤立していると感じているか」を聞いているという違いがあります。

先ほど「孤独は主観的概念である」とお話ししました。孤立していないと感じていても、自分の気持ちとしては孤独感を抱えていることもあります。逆に、孤立していると感じていても、自分の気持ちとしては孤独感を抱えていないこともあります。

問3だけでは、主観（自分の気持ち）はわかりません。そのため、主観を聞く問い2が入っています。

孤独・孤立とは？ つながりを考えてみよう

つながりを考えてみよう

家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についてお尋ねします。あなたと同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度は、次のうちどれがあてはまりますか？
○をしてください。

問4

週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない

12

問4は、「家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についてお尋ねします。あなたと同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度は、次のうちどれがあてはまりますか？」です。問4については該当する回答の枠に丸印をつけていただければと思います。

こちらは発表いただくわけでもありませんし、選択肢によって、良い悪いがあるわけではありません。率直に感じたことや思ったことを書いていただければと思います。

（もし参加者の様子を観察し、書けていないようであれば1分程度待つ。）

大丈夫そうですね。では、次に進んでいきたいと思います。

今、回答いただいた質問については、これからご紹介する内容で活用しますのでみなさんがどのようなお答えをして何点だったかなというところはぜひ覚えておいてください。

4. 調査結果からわかること

目的	3までで示してきた内容に対して、データで客観的に裏付けを示し、孤独・孤立について知識を身につける。 - その上で、「つながりサポーター」の必要性について理解し、「つながりサポーター」への意欲喚起を促す。
時間目安	8分
留意事項とポイント	- 孤独を感じているから悪いわけではない。 「誰にでも起こりうること」「相談できる人がいるだけで楽になること」を理解してもらい、つながりサポーターの必要性を理解してもらう。

スライド13：孤独・孤立とは？ ～調査結果からわかること～

孤独・孤立とは？

～調査結果からわかること～

回答いただいた質問4つは、実は令和4年に行われた全国調査「人々のつながりに関する基礎調査（内閣官房 孤独・孤立対策担当室）」の質問内容と同じものになっています。
その調査結果に関して、いくつかポイントをご紹介します。

ポイント

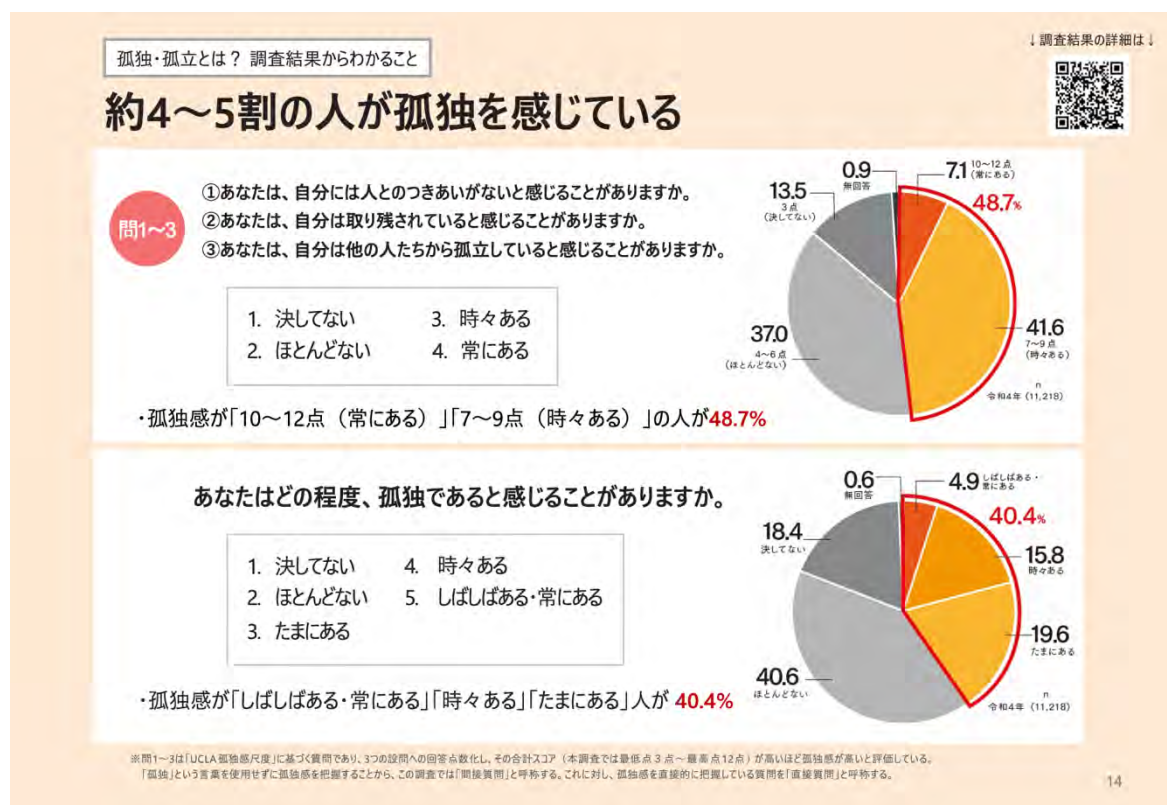
- つながりが薄い社会では、**孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうる**
- 支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、**支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいる**
- **相談できる人が身近にいること自体が、孤独感を和らげることにつながる**

13

みなさんに回答いただいた質問は、皆さん自身がどういう状況にあるのかについて、ご自身で把握してもらうために行う質問項目でした。この質問は、実は令和4年に行われた国の全国調査「人々のつながりに関する基礎調査」と同じ質問となっています。

ここからは、その調査項目の結果を始め、いくつかポイントを紹介しながら孤独・孤立に関して日本社会がどのような状況にあるのかをご説明したいと思います。

この章で主に学ぶのは、つながりが薄い社会では、孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうること。支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいること。そして、相談できる人が身近にいること自体が、孤独感を和らげることにつながることです。



結論から申し上げますと約4～5割の方が孤独を感じていると調査結果になっています。

こちらの、上のグラフが先ほどの問1問2問3に連動しています。上のグラフに用いられている質問は「間接質問」と言われる質問でして「孤独」という言葉を使わずに、孤独感を把握するための質問をしています。

反対に、下のグラフは「直接質問」といわれるものでして、直接「孤独」という言葉を使って孤独感を把握しています。ここは「こういった質問方法がある」というぐらいに認識しておいていただければと思います。

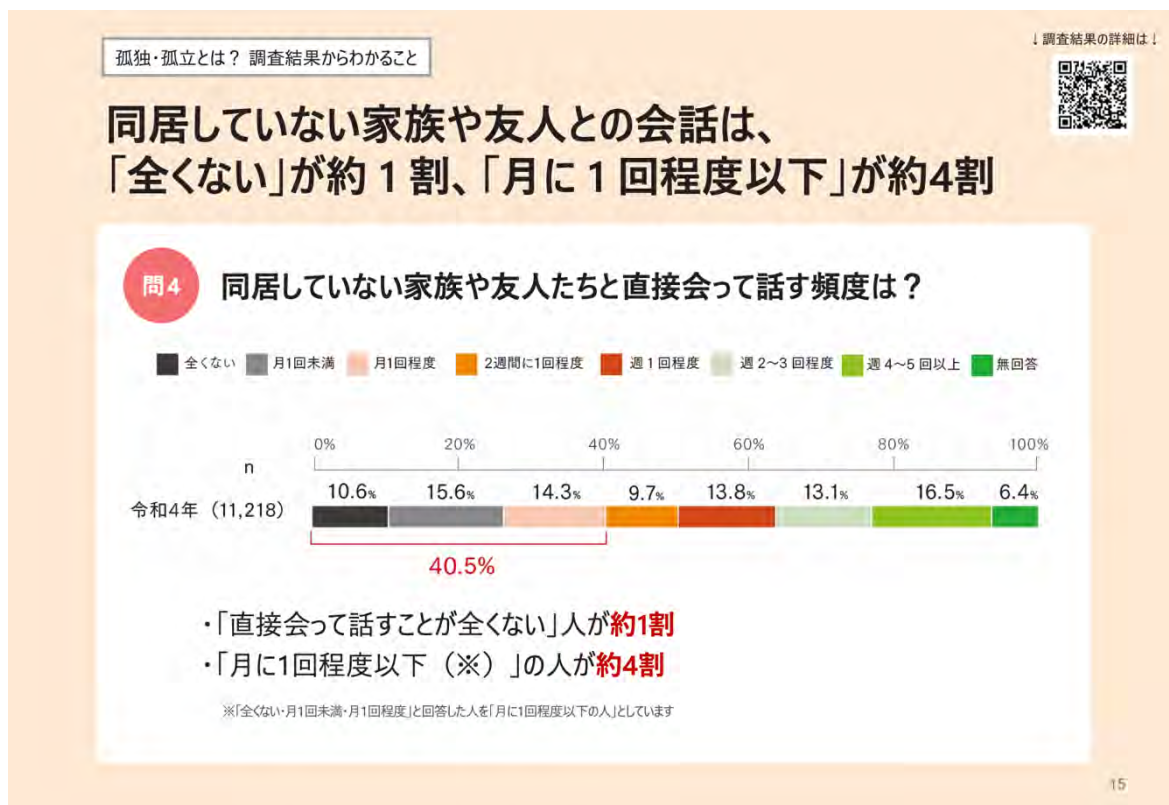
さて、前で実施した問1から問3の合計点について、皆さん何点だったか覚えていただけますでしょうか。発表しなくていいので何点だったか心の中で思い返していただければと思います。

孤独感に関して10点から12点が「常にある」、7点から9点が「時々ある」、4点から6点が「ほとんどない」、3点が「決してない」とされています。7点以上だと、「少し孤独を感じていらっしゃるかな」と考えることができるのではないかと分析をされています。

ここでは、「国の調査ではこういった結果になりました」という点をお伝えしていますが、皆さんの孤独の感じ方によって良い悪いということを述べたいのではありません。あくまで日本社会全体で孤独を感じている方がこのくらいいるということを示すデータとして理解していただければと思います。

スライド15：

同居していない家族や友人との会話は、「全くない」が約1割、
「月に1回程度以下」が約4割



次に皆さんに回答いただいた問4に該当する調査結果です。「同居していない家族や友人との会話では「全くない」が約1割、「月に1回程度以下」が約4割」という結果となっています。皆さんの結果がどうなったかはわかりませんが「月に1回程度以下」というと、「あまり人と会っておらず孤立しているのではないか」というふうに考えることができる調査結果になっています。

このように、孤独・孤立それぞれ約4割の方が一定程度以上 孤独や孤立状態であるというふうに言われていまして、そういった方が社会全体の中でも非常に増えているのではないかと考えられています。

孤独・孤立とは？ 調査結果からわかること

調査結果の詳細は↓

各ポイントの詳しいデータはp34～



調査結果のポイント

- ① 孤独感に影響を与える出来事はライフステージのあらゆる場面で起こりうる**
「家族との死別」「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」「転校・転職・離職・退職（失業を除く）」など
- ② 相談相手がいないと、孤独感を抱える割合が高い**
不安や悩みの相談相手が「いない」場合、「いる」と比べて、孤独感を常に抱えている人が約5～6倍多い
- ③ 支援を受けていない理由、「受け方がわからない」「必要でない」がそれぞれ約4割**
「必要でない」と回答した人の中には、ひとりで抱え込んでしまう人も多いだろうということが推測される
- ④ 約7割の人が「相談することで楽になる」と回答**
- ⑤ 不安や悩みの相談相手は「家族」が約9割、「友人・知人」が約6割**

ここからは、国の調査結果からわかることについて、5つポイントでお話ししていきたいと
思います。調査結果の詳しいデータについて知りたい方は、34ページ以降の参考資料よりご
確認ください。

一つ目は、孤独感に影響を与える出来事は特別なものだけではないということです。例え
ば「家族との死別」「心身の重大なトラブル」や「転校・転職・離職・退職」といった様々
な出来事が私たちに孤独感を与えてしまうといわれています。人生のどこかのタイミング
で、もしかしたら誰しもが経験する出来事においても、私たちは孤独を感じてしまいやすい
ということは大事なポイントであると思います。

次に「相談相手がいないと孤独感を抱える割合が高い」ということが調査結果ではいわれ
ています。孤独感について、不安や悩みの相談相手がいる人といない人では、いない人の方
が孤独感を常に抱えている人が約5～6倍多くなっています。当たり前を感じる方も
多いと思いますが、頼れる相手がいるということは非常に私たちにとって支えになり、人と
人のつながりが大事だということが、見えてくるのではないかなと思います。

（次ページに続きます）

3つ目のポイントは、一定以上孤独を感じており、かつ「支援を受けていない」と回答した方の中で、「受け方がわからないため」「支援が必要でないため」と回答した方がそれぞれ約4割にのぼったということです。「必要でない」が4割という回答をみると、「支援が求められていない」という風にも読めてしまいますが、そう答えた背景を少し深掘りしてみると「支援を受けることが恥ずかしい」「自分でなんとかしないといけないと感じている」といった状況も見えてきます。

4つ目のポイントは、約7割の方が「相談することで楽になる」と回答したということです。相談すると楽になると言われても、なかなか相談しにくいとか、相談することが恥ずかしいとか、相談していいのかわからないとか、そのような思いでいらっしゃる方が多いのは理解できる一方で、実際に様々な専門機関や支援機関、知人も含めて相談していただけると、問題自体が解決せずとも、気持ちが楽になると答えていただいていることが調査結果から見えてきます。

そして5つ目のポイントが、不安や悩みの相談相手は「家族」が約9割、「友人・知人」が約6割ということです。ここで大事なことは、相談相手となるのは、支援団体であったり、行政機関などのいわゆる専門機関だけでなく、家族や知人など、日々その人とつきあっている「身近な人」であるという点です。だからこそ、本日実施させていただいている「つながりサポーター」のように、身近なところで気にかける存在が大事になってくるのです。

孤独・孤立とは？ 調査結果からわかること

「調査結果からわかること」

ポイント

- つながりが薄い社会では、**孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうる**
- 支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、**支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいる**
- **相談できる人が身近にいること自体が、孤独感を和らげる**ことにつながる

17

ここまで、みなさんに個人ワークをしていただいた上で、国の調査結果をご紹介しました。簡単にまとめますと、「つながりが薄い社会では、孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうる」「支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいる」「相談できる人が身近にいること自体が、孤独感を和らげることにつながる」といったことがわかってきたのではないかなと思います。

5. 困ったときどうする？

目的	「つながりサポーター」に期待される行動を理解する。
時間目安	12分
留意事項とポイント	● 孤独を感じているから悪いわけではない。 ● 当事者性の高い受講者に配慮する。 ● 周囲の悩みや困りごとに対して無理に課題を解決するのではなく、できる範囲でサポートする。 ● 相談にのった自分自身も辛くなってしまわないように、抱えこまず、専門機関の利用を促す。 ● スライド19の質問内容は自治体版を例に記載。実施主体によって、回答しやすい質問に修正が必要。スライド27の相談窓口と対応している。

スライド18：困ったときどうする？

困ったときどうする？

ここまで「孤独・孤立とは？」というお話をしてきました。

では、自分や周囲の人が孤独・孤立状態に陥り、
悩みや困りごとを抱えたときには、どうしたらいいのでしょうか。

個人ワークを通して考えてみましょう。

ポイント

- ・ 自分が困ったときの備えとして、ふだんから「誰に相談できるか」を考えておくこと、「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが重要
- ・ 周囲の人の悩みや困りごとには、「気にかける」「相談窓口につなぐ」など、できる範囲で無理なくサポートすることが大切

18

ここからは社会課題としての孤独・孤立について、「ではどうしたらいいんですか？」という点について見ていきたいと思います。

まず自分や周囲の人が孤独・孤立状態に陥り、悩みや困り事を抱えたときにどうしたらいいのかなというところを考えていきましょう。

この章で主に学ぶのは、自分が困ったときの備えとして、ふだんから「誰に相談できるか」を考えておくこと、「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが重要ということ。周囲の人の悩みや困りごとには、「気にかける」「相談窓口につなぐ」など、できる範囲で無理なくサポートすることが大切ということです。

困ったときどうする？

自分が困ったときはどうする？

以下の悩みや困りごとを抱えたとしたら、あなたは どうしますか？

問1

職場（地域）の集まりで嫌なことがあった。明日から行くのが気まずい。どうしよう？

問2

認知症の親の介護が大変で仕事ができない。どうしよう？

問3

失業して収入もなくなってしまう。貯金も尽きてしまう。どうしよう？

19

ここでは、個人ワークがありまして、この項目を埋めていただきたいと思います。

少し難しめの問題になるかもしれませんが、誰かに見せるわけではありませんので、ご自身で率直なところを書いていただければと思います。

1 問目は、「職場（地域）の集まりで嫌なことがあった。明日から行くのが気まずい。どうしよう？」こういった場所では書きにくいかもしれませんが、お書きいただければと思います。

2 問目は、「認知症の親の介護が大変で仕事ができない。どうしよう？」、こういった場面にご経験がない方も多いと思いますが、その場合はもし将来その状況になってしまったらという形で想像しながら書いてみてください。

3 問目は、「失業して収入もなくなってしまった。貯金も尽きてしまう。どうしよう？」、お金の話なのですが、少し重たい状況かと思います。

こういう場所があるということではなくて、まず誰に相談するか、こういったところに相談するのか、といった観点で記載いただければと思います。重ねて言いますが、発表を求めることはありませんので、率直に思うことを記載いただければと思います。それでは、既にお書きいただいている方もいらっしゃるかもしれませんが、5分間、時間をとりたいと思います。もし、書いていて嫌な気持ちになったりしてしまう場合には、無理に記載いただかなくても構いません。

（5分間。参加者の様子を観察し、書けていないようであれば延長する。）

困ったときどうする？

相談窓口リストはp27へ

自分が困ったときはどうする？

「約7割の人が『相談することで楽になる』と答えた」という調査結果を紹介しましたが、「誰に相談したらいいかわからない」と思われた方も少なくないのではないのでしょうか。

内容によっては「心配をかけたくないから相談しにくいな」と感じた方もいらっしゃるかもしれません。身近な人に相談しにくい場合には、自治体などの相談窓口を活用することも大事です。

いざ自分が困ったときには、冷静に物事を考えられないことも多いです。どうしたらいいか途方に暮れてしまうこともあるでしょう。

だからこそ、ふだんからの備えとして「誰に相談できるか」を考えておくこと、「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが大切です。

また、日頃からいろんな人とつながっておくことも重要です。近所のカフェに行く、商店街の催しに参加するなど、日常的なつながりを意識して作ってみるのもできることの一つです。



20

それでは、次に進めていきます。自分が困ったときについて、意外と考えたこともなかった人も多かったのではないのでしょうか？

前のスライドで「約7割の人が『相談することで楽になる』と答えた」という調査結果を紹介しましたが、「誰に相談したらいいかわからない」と思われた方も少なくないのではないのでしょうか。相談相手として家族、パートナー、友人が思い浮かんだ方でも、内容によっては「心配をかけたくないから相談しにくいな」と感じた方もいらっしゃるかもしれません。もし、身近な人に相談しにくい場合には、自治体などの相談窓口を活用することも大事です。

一方で、いざ自分が困ったときには、冷静に物事を考えられないことも多く、どうしたらいいか途方に暮れてしまうこともあるかもしれません。だからこそ、普段からの備えとして「誰に相談できるか」を考えておくこと、「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが大切だと考えています。

また、これまで日常のちょっとしたつながりが大切であることも見てきましたが、日頃からいろいろな人とつながっておくことも重要です。近所のカフェに行く、商店街の催しに参加するなど、日常的なつながりを意識して作ってみるのもできることのひとつだと私たちは考えています。

困ったときどうする？

周囲の人の悩みや困りごとには？

冒頭でお話したように「つながりサポーター」は、なにか「特別なことをする人」「しなければならない人」ではありません。

身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートすることが大切です。

たとえば、「相手のことを少し気にかける」「親身になって話を聞く」といった日常的な行動です。

そうした日常のつながりが、周囲の人の孤独感・孤立感を和らげ、悩みや困りごとが複雑化・深刻化するのを防ぐことにつながるかもしれません。

一方で、自分自身が辛くなってしまわないように、無理なくサポートするという意識も大切です。相手の悩みや困りごとを自分だけで抱え込んで解決しようとせず、相談窓口を頼りましょう。

悩みや困りごとが複雑化・深刻化する例：子育て

【悩みや困りごと】

・一人で育児は大変
・仕事と家庭の両立が難しい
...など

×

【孤独・孤立】

・頼れる人がいない
・子どもの面倒を見てくれる人がいない
...など

⇒

【複雑化・深刻化】

・親子の健康状態の悪化
・不安による気持ちの落ち込み
・ネグレクト（育児放棄）
...など

21

では、次に周囲の人の悩みや困りごとには？という点でお話をさせていただければと思います。冒頭でご説明したとおり、「つながりサポーター」は、なにか「特別なことをする人」「しなければならない人」ではありません。身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートすることが大切になります。

「できる範囲って何だろう」と考えたときに少し難しい部分もあるかと思います。

専門家とか支援機関ではなく、自分はそんな専門知識がないという場合でも、例えば、「相手のことを少し気にかけてる」「親身になって話を聞く」といった日常的な行動が実は非常に大事であり、そういった行動が社会の中につながりを生み出し、周囲の人の孤独感・孤立感を和らげ、悩みや困りごとが複雑化・深刻化するのを防ぐことにつながるかもしれません。

一方で、これも重要な点として「自分自身が辛くなってしまわないように、無理なくサポートする」という意識も大切です。自分ができる範囲で無理がなく行動してもらい、自分で抱えこんで解決しようとせずに専門家や行政などの支援機関を頼っていただければと思います。そういった意味でも様々な窓口を知っておくなど、普段から備えていくことが大切であると考えています。

なお、サポートの実践的なスキル、例えばお話を聞くってどういうことだろうといったときにいろいろなスキルがありますが、地方自治体や国によって専門的な養成講座も実施されていますので、そのような講座を活用していただければと思います。具体的には、後ほど紹介します。

33

困ったときどうする？

具体的なスキルを学ぶ講座一覧はp33へ

周囲の人の困りごとには？

(例) 気にかける



おはよ...

おはよう！

なんか元気なさそう...
もし何か困ったことあるなら
聞いてみよう

(例) 地域活動や相談窓口につなぐ



最近連絡ないなあ...
久しぶりに「最近何してる？」って
送ってみようかな



最近忙しそうで会えてないな。
今度一緒に商店街の催しに
誘ってみようかな



地域包括支援センターなら
相談に乗ってくれるかも
しれません

パートナーの介護が大変で。
一人でずっとお世話をしている

22

このスライドでは「気にかける」「地域活動や相談窓口につなぐ」場合の簡単な例をお示ししています。「なんか元気なさそうだな」や「最近連絡ないな」など、まずは周囲の人の様子を気にかけることが大切です。また、なかなか会えていない友人を「商店街の催しに誘ってみようかな」と誘ってみると、悩みや困りごとに気づくきっかけが得られるかもしれません。介護の問題など、場合によっては「地域包括支援センター」などの専門機関につなぐことも大切です。

そのときに大事なポイントは、相手の置かれている状況を想像することです。悩みや困りごとの背景にはさまざまな事情があります。そういった事情を想像しながら声をかけることが大切です。

困ったときどうする？

「困ったときどうする？」

ポイント

- 自分が困ったときの備えとして、ふだんから「誰に相談できるか」を考えておくこと、「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが重要
- 周囲の人の悩みや困りごとには、「気にかける」「相談窓口につなぐ」など、できる範囲で無理なくサポートすることが大切

23

ここまでご自身が困ったとき、そして周囲の人が困ったときの対応を見てきました。自分が困ったときの備えとして、普段から「誰に相談できるか」を考えておくこと、「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが重要です。さらに、周囲の人の悩みや困りごとには、「気にかける」「相談窓口につなぐ」など、できる範囲で無理なくサポートすることが大切です、ということをご説明してきました。

6. 相談窓口を知ろう

目的	身近にある相談窓口を把握する。
時間目安	12分
留意事項とポイント	• スライド25の質問内容は自治体版を例に記載。実施主体によって、回答しやすい質問に修正が必要。スライド27の相談窓口と対応している。 • スライド27の相談窓口は自治体版を例に記載。実施主体によって適切な内容に修正が必要。テキスト最後尾に企業、学校版のテンプレートを用意。 • 以下の解説例では、自治体版を例として記載。実施主体に即して読み替えが必要。

スライド24：相談窓口を知ろう

相談窓口を知ろう

自分や周囲の人が、孤独・孤立状態で悩みや困りごとを抱えたとき。
あなたの周りには、その悩みや困りごとに応える
さまざまな相談窓口があります。
ここからは、どのような相談窓口があるのか把握していきましょう。

24

ここからは、自分や周囲の人が、孤独・孤立状態で悩みや困りごとを抱えたとき、その悩みや困りごとに応える様々な相談窓口についてご紹介していきます。

スライド 25：地域の相談窓口は？

[相談窓口を知ろう](#)[相談窓口リストはp27へ](#)

地域の相談窓口は？

あなたの住んでいる地域の相談窓口について考えてみましょう。
以下の悩みや困りごとを抱えた際、どのような相談窓口が思い浮かびますか？

▼住まいがなくなった

▼借金のごことで困っている

▼子育てで悩んでいる

▼親の介護について相談したい

▼つらい、死にたい、消えてしまいたい

25

ここで、まず個人ワークをしていただきたいと思います。

あなたの住んでいる地域の相談窓口について考えてみましょう。

スライドに記載しているような悩みや困りごとを抱えた際、どのような相談窓口が思い浮かぶでしょうか？3分ほど時間を取りたいと思いますので、記載してみてください。

(3分間)

相談窓口を知ろう

相談窓口を知ることから始めよう

いくつかの相談窓口が思いつきましたか？

まずは、地域の相談窓口を知ることから始めていきましょう。

自分や周囲の人が悩みや困りごとを抱えたとき、頼れる先を知っていること自体が不安感の解消につながったり、悩みや困りごとの深刻化を防ぐことにもつながります。

次のページから相談窓口を紹介しています。

自分だけで抱え込まず、適切な窓口を活用してみてください。

相談窓口リストはp27へ

26

いくつかの相談窓口が思いついたでしょうか？まずは、地域の相談窓口を知ることから始めていきましょう。

自分や周囲の人が悩みや困りごとを抱えたとき、頼れる先を知っていること自体が不安感の解消につながったり、悩みや困りごとの深刻化を防ぐことにもつながります。

次のスライドで具体的な相談窓口を紹介しています。自分だけで抱えこまず、適切な窓口を活用してみてください。また、周囲の人をサポートする中で相手の困りごとを抱え込んでしまい、自分自身がつらくなってしまうたら、無理せず相談窓口を頼ってみてください。

相談窓口を知ろう

※自治体用テンプレート

相談窓口リスト

〇〇では、以下のような相談窓口を設置しています。

【相談窓口】

▼（悩みや困りごと）ダミー。お金や生活に困っている
（場所）ダミー。生活自立相談支援センター
（連絡先）ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00

▼ダミー。介護について相談したい
ダミー。地域包括支援センター
ダミー。お住まいの地域を担当する地域包括支援センターへ電話または直接窓口にお問い合わせください

▼ダミー。子育てで悩んでいる
ダミー。子育て世代包括支援センター
ダミー。お住まいの地区を担当する窓口にお問い合わせください

▼ダミー。つらい、死にたい、消えてしまいたい
ダミー。障害保健福祉課
ダミー。000-000-0000 平日 0:00 ～ 0:00
（土日祝年末年始休み）

【オンラインの相談窓口】

（名称）ダミー。まもろうところ
（連絡先）ダミー。000-000-0000
ダミー。月～金曜日／ 9:00 ～ 16:00



（名称）
（連絡先）



27

（スライドに沿って相談窓口の紹介）

（以下、具体的な紹介例）

- ・相談窓口を利用する際の利用料の有無
 - ・相談窓口の対応の流れや相談の雰囲気
 - ・相談窓口の担当者や専門家はどのような人か
 - ・相談窓口で受けている実際の相談事例。どのような人にどう役立っているか
 - ・相談窓口を利用した際の体験談。どのように利用し、いかに悩みが解決されたか
- …など

相談窓口を知ろう

全国で利用できる相談窓口・支援制度は？

全国で利用できる相談窓口・支援制度にはどのようなものがあるか、把握しておきましょう。

悩みや困りごとを抱える人にこのような相談窓口や支援制度を紹介して、頼るよう促したり、一緒に窓口に行ったりすることも、サポーターにできることの一つです。

28

また、各自治体だけでなく、全国で利用できる相談窓口や支援制度があります。

悩みや困りごとのある人には、厚生労働省の「まもろうよところ」のサイトで、電話やSNSの相談窓口をご紹介します。学校でのいじめ等の悩みを相談したいと思ったら、文部科学省の「24時間子供SOSダイヤル」でもSNSや電話で相談することができます。

具体的な利用方法は各ページで紹介されていますので、QRコードを読み込んで確認してみてください。

どれを利用してみたら良いかわからない方は、スライドの中心にある「あなたはひとりじゃない」を利用してみてください。あなたの悩みや困りごとにあった相談窓口や支援制度をチャットボットが案内してくれます。

悩みや困りごとを抱える人にこのような相談窓口や支援制度を紹介して、頼るよう促したり、一緒に窓口に行ったりすることも、サポーターにできることの一つです。

7. 地域活動を知ろう

目的	身近にある地域活動を把握する。
時間目安	3分
留意事項とポイント	- 自治体版を例として記載。相談窓口以外の地域活動（例：民生委員や町内会、公民館活動、ボランティア活動、サークル活動等）や居場所などを記載する。実施主体が自治体以外の場合で該当する活動がない場合は、本章自体を削除可能。 - もし、地域活動リストの量が多い場合は、添付資料として別資料を参照する形に修正も可能。 - スライド30の右上にQRコード（サンプル）を設置。より詳しく地域活動を紹介しているwebページなどがあれば、QRコードを置くことも可能。

スライド29：地域活動を知ろう

地域活動を知ろう



地域ではどのような活動が行われているのでしょうか。
主な地域活動をご紹介します。

29

相談窓口以外にも地域は様々な地域活動が行われています。相談するほどではないけど、といった場合や、地域の人とのつながりを作りたいなという場合に、こういった地域活動に参加してみることも検討してみてはどうでしょうか。

地域活動を知ろう

↓ 詳しくは ↓



地域活動を知ろう

〇〇市では、以下のような地域活動を行なっています。

▼(活動名・団体名) ダミー。みんなでつくろう子どもの居場所 (活動内容) 子ども教室の運営 (連絡先) 各区社会福祉課	▼(活動名・団体名) ダミー。町内会 (活動内容) (連絡先)
▼(活動名・団体名) ダミー。民生委員 (場所) (連絡先)	▼(活動名・団体名) ダミー。公民館活動 (場所) (連絡先)
▼(活動名・団体名) ダミー。ボランティア活動 (場所) (連絡先)	▼(活動名・団体名) ダミー。サークル活動 (場所) (連絡先)
▼(活動名・団体名) ダミー。居場所活動 (場所) (連絡先)	▼(活動名・団体名) (場所) (連絡先)

30

(追記した内容に沿って解説)

8. 最後に

目的	結びの言葉として、実施主体からの思いを伝えてもらい、受講者同士、今後一緒に取り組む仲間であることを伝える。
時間目安	2分
留意事項とポイント	● スライド31は実施主体の実情に合わせて追記する。 ● これまで孤独・孤立に関して実施している施策や、関連する領域で取り組んでいる内容等を紹介するとともに、一過性のものでなく、今後も継続して、受講者と一緒に孤独・孤立に取り組んでいく姿勢を示す。 ● 改めて「孤独・孤立状態そのものは決して悪いことではない」という点を伝え、受講者が前向きに活動していきたくなるようなメッセージを伝える。

スライド31：最後に

最後に

※テンプレート

※受講者へのメッセージや、そのほかの孤独・孤立の取り組みについて記載がございましたら以下の例を参考に編集ください

改めて、大事な点は「一人でいても、つながっても良い」ということです。
孤独であること、孤立していること自体は決して悪いことではありません。
問題なのは、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまうことで、複雑化・深刻化してしまうことです。

〇〇では、〇〇市官民連携プラットフォームを〇年〇月に立ち上げました。
××個の民間団体等との連携・協働により、孤独・孤立対策の取り組みとして、
〇〇のような事業を始めています。

こうした取り組みを進めていくことで、誰もが困ったときに気軽に声を上げられる・かけられる社会、相互に支え合い人と人との「つながり」が生まれる社会に近づいていくと考えています。

この講座にご参加いただいたみなさんとも、ぜひ引き続き一緒に取り組んでいけると嬉しいです。

(スライドに沿ってご説明)

参考資料

目的	参考情報
時間目安	分
留意事項とポイント	● 実施主体によって、追記したい、紹介したい参考情報が自由に追記可能。 ● スライド33は、自治体にて「ひきこもりサポーター養成講座」を実施している場合、HPのリンクを貼ったQRコードが掲載可能 ● 講座の感想や意見の受付先についてテンプレートをご用意しています。受付先を記載する場合は適宜ご使用ください

スライド32：参考資料



ここからは参考資料になります。

各分野の実践的な養成講座

孤独・孤立の問題に関わる実践的な養成講座には、例えば以下のようなものがあります。

認知症サポーター養成講座

講師役である「キャラバン・メイト」が、地域や職域団体等を対象に、認知症の知識や、つきあい方について講義を行う



あいサポート運動（あいサポーター研修）

障がいの特性や必要な配慮などを理解して、障がいのある方を手助けする「あいサポーター」を養成する



精神・発達障害者しごとサポーター養成講座

精神・発達障害についての知識と理解を持って、精神・発達障害者を温かく見守り、支援する応援者を育成する



心のサポーター養成研修

知識と理解に基づき、家族や同僚など身近な人に対して、傾聴を中心とした支援を行う「心のサポーター」を養成する



ゲートキーパー養成講座

地域や職場、教育の現場でメンタルヘルスを学び、自殺のサインに気づき、見守り、専門の相談機関につなぐ役割を担う「ゲートキーパー」を養成する



ひきこもりサポーター養成講座

ひきこもりの状態にある方及びその家族に対し社会参加に向けて継続的に関わりをもち、ともに活動したり、適切な支援先につないだり、ひきこもりに対する理解促進を深める活動を行う「ひきこもりサポーター」を養成する

孤独・孤立に関わる実践的な講座をご紹介します。個別の課題やもう少し詳しいスキルなどを学びたい方は是非こちらの講座も受講してみてください。

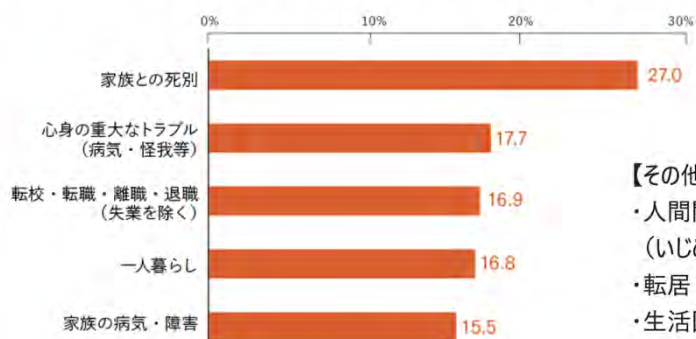
調査結果のポイント①

↓ 調査結果の詳細は ↓



孤独感に影響を与える出来事はライフステージのあらゆる場面で起こりうる

現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事（複数回答）



【その他】

- ・人間関係による重大なトラブル
(いじめ・ハラスメント等を含む)
- ・転居
- ・生活困窮・貧困 ...など

※本グラフは孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」又は「たまにある」と回答した人の「現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事」から上位5つを抜き出して編集しています

「調査結果からわかること」でお伝えしたポイントに関するデータをご紹介します。
より詳しい調査結果を知りたい方は、ぜひQRコード先の調査結果の詳細をご覧ください。

※テンプレート

**講座の感想やご意見は
こちらで受け付けています**

運営事務局：
連絡先：

講座の感想やご意見はこちらで受け付けています。何かありましたらこちらにお寄せください。

本日は受講いただきありがとうございました。もし受講して少ししんどくなってしまうたり、精神的に不安定になってしまったら、ぜひ相談窓口を活用してみてください。

以上

【参考】

つながりサポーター養成講座 令和5年度試行実施におけるアンケート調査まとめ

①概要

実施当日に、受講者全員を対象としたアンケート調査(紙媒体、記述式含む設問 18 問、A4 判 2 ページ)を行なった。

アンケートは、「孤独・孤立への興味関心の高まりは見られたか」「つながりサポーターの活動に対する意欲はどの程度か」「講座の時間やテキストの難易度は適切か」など、養成講座の内容を評価するための項目を設定し、試行実施の成果のほどを測定した。

なお、検討会の討議の中で「子ども版は高校生までを受講対象者に含めるか」という論点が上がったため、日本工学院での試行実施のアンケートにて、受講した専門学生に対して「高校生にとって難しい内容か」という項目を設置した。その回答結果、意見をもって、高校生は子ども版の受講対象者に含めるか、判断することとした。

②項目

no	設問	回答選択肢
-	性別	男性/女性/その他/答えたくない
-	年齢	10代/20代/30代/40代/50代/60代/70代/80歳以上
-	所属団体	自由記述
1	本講座を受講する前と比べて、孤独・孤立に対する理解に変化はありましたか？	よく理解できた/どちらかという理解できた/どちらかという変わらない/全く変わらない
2	孤独・孤立の問題について興味・関心は高まりましたか？	非常に高まった/どちらかという高まった/どちらかという変わらない/全く変わらない
3	周囲に悩みや困りごとを抱えている人がいたら、できる範囲でサポートしようと思いますか？	そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/全くそう思わない
4	<3>の回答を選択した理由についてお聞かせください。	自由記述
5	自分が悩みや困りごとを抱えたとき、相談窓口を活用しようと思いますか？	そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/全くそう思わない
6	<5>の回答を選択した理由についてお聞かせください。	自由記述
7	周囲の人が悩みや困りごとを抱えているとき、相談窓口を勧めようと思いますか？	そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/全くそう思わない
8	<7>の回答を選択した理由についてお聞かせください。	自由記述
9	本講座の時間について教えてください。	長すぎる/長い/ちょうど良い/短い/短すぎる
10	テキストの内容のわかりやすさを教えてください。	やさしすぎる/やさしい/ちょうど良い/難しい/難しすぎる
11	高校生にとってもわかりやすい内容だと感じますか？(※日本工学院の場合のみ)	やさしすぎる/やさしい/ちょうど良い/難しい/難しすぎる
12	<11>の回答を選択した理由についてお聞かせください。(※日本工学院の場合のみ)	自由記述
13	企業の研修等で使う場合に、内容は十分と感じますか？(※日本生命の場合のみ)	かなりものたりない/少しものたりない/ちょうど良い/少し余分な内容がある/かなり余分な内容がある
14	<13>の回答を選択した理由についてお聞かせください。(※日本生命の場合のみ)	自由記述
15	本講座で分からなかったこと、もっと知りたいことがあればご記入ください。	自由記述
16	本講座の受講を勧めたい団体や関係機関があれば教えてください。(※鶴岡市の場合のみ)	自由記述
17	用語や表現で不適切だったり、気になったりしたものがあれば教えてください。	自由記述
18	改善点やお気づきの点があれば自由にご記入ください。	自由記述

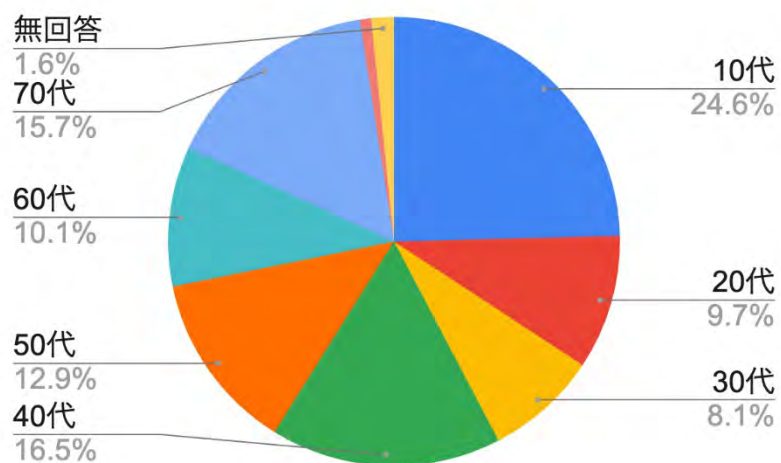
③結果

(1)回答結果

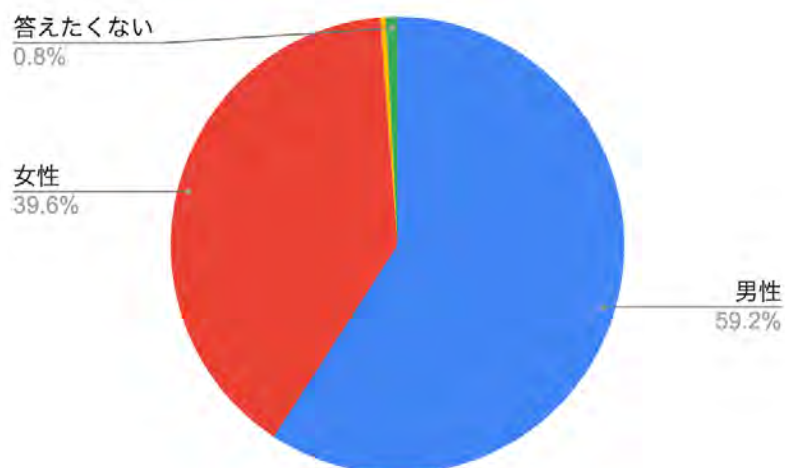
アンケートの回答結果を記載する。

回答結果の詳細は別途提出する。

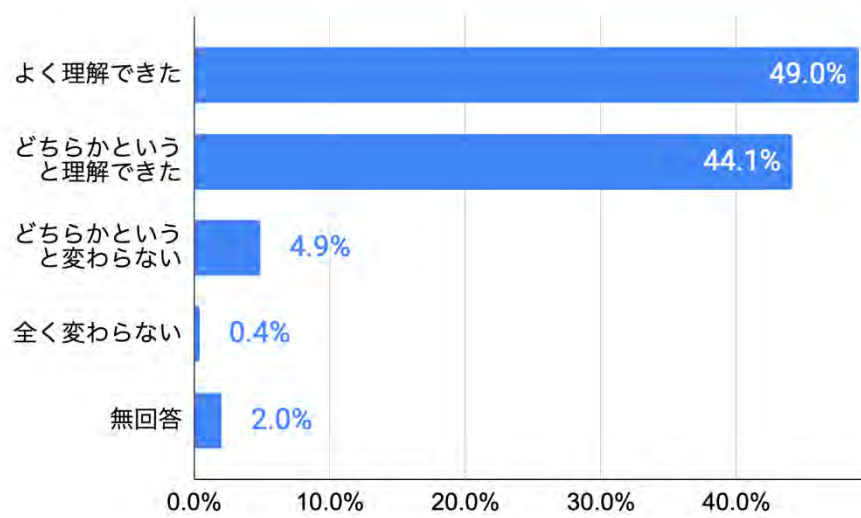
年齢



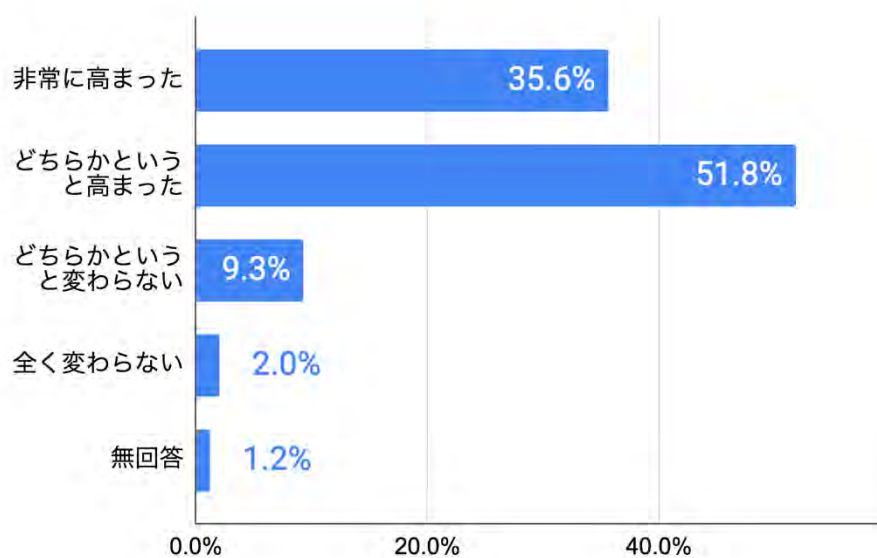
性別



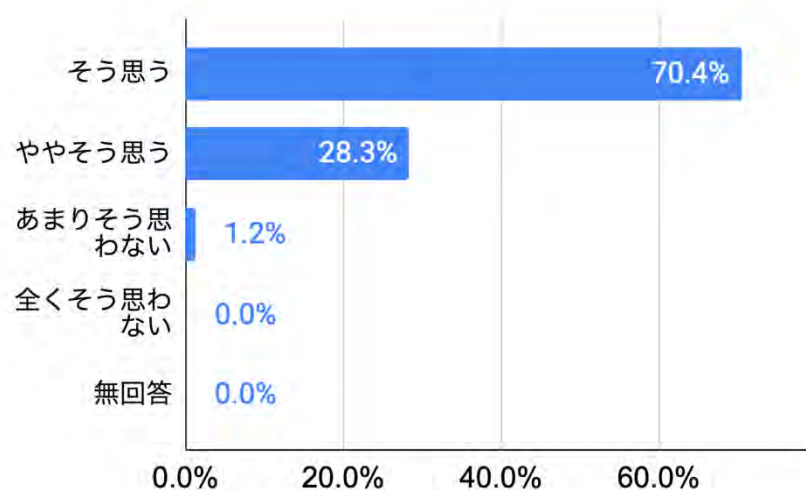
1. 本講座を受講する前と比べて、孤独・孤立に対する理解に変化はありましたか？



2. 孤独・孤立の問題について興味・関心は高まりましたか？



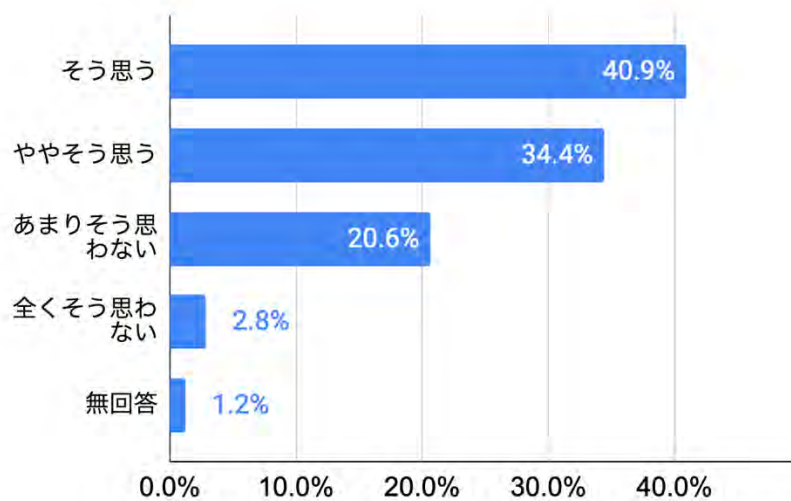
3. 周囲に悩みや困りごとを抱えている人がいたら、できる範囲でサポートしようと思いますか？



4. <3>の回答を選択した理由についてお聞かせください。

※主な回答理由、意見は下記に記載する。

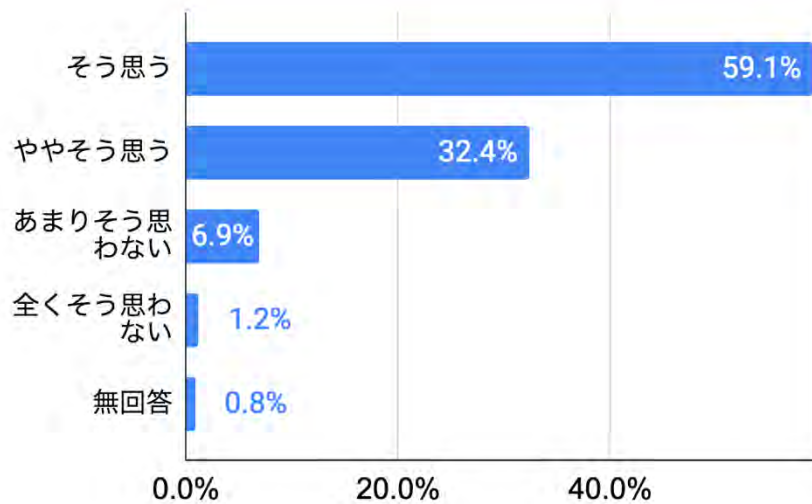
5. 自分が悩みや困りごとを抱えたとき、相談窓口を活用しようと思いますか？



6. <5>の回答を選択した理由についてお聞かせください。

※主な回答理由、意見は下記に記載する。

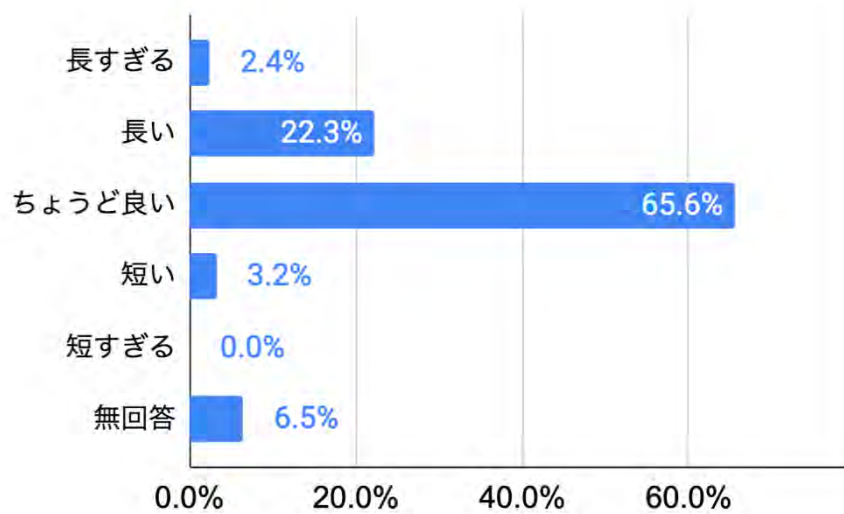
7. 周囲の人が悩みや困りごとを抱えているとき、相談窓口を勧めようと思いますか？



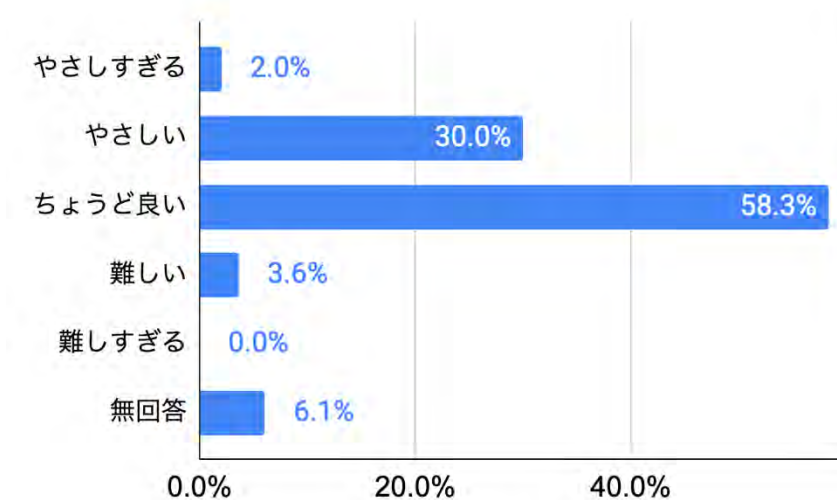
8. <7>の回答を選択した理由についてお聞かせください。

※主な回答理由、意見は下記に記載する。

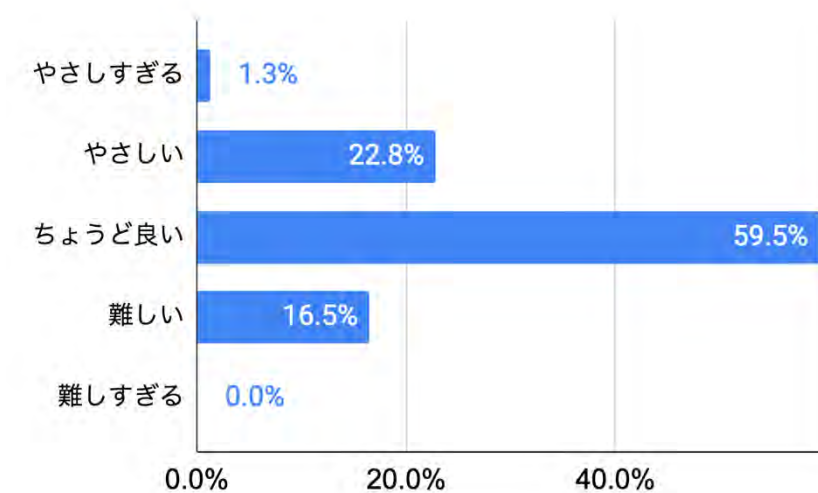
9. 本講座の時間について教えてください。



10. テキストの内容のわかりやすさを教えてください。



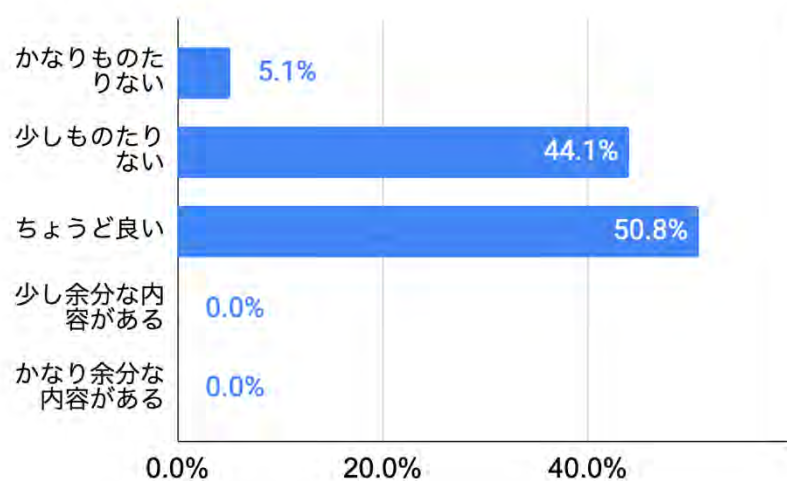
11. 高校生にとってもわかりやすい内容だと感じますか？（※日本工学院の場合のみ）



12. <11>の回答を選択した理由についてお聞かせください。

※主な回答理由、意見は下記に記載する。

13. 企業の研修等で使う場合に、内容は十分と感じますか？（※日本生命の場合のみ）



14. <13>の回答を選択した理由についてお聞かせください。

※主な回答理由、意見は下記に記載する。

(2)回答結果のサマリー

以下に回答結果のサマリーを記載する。

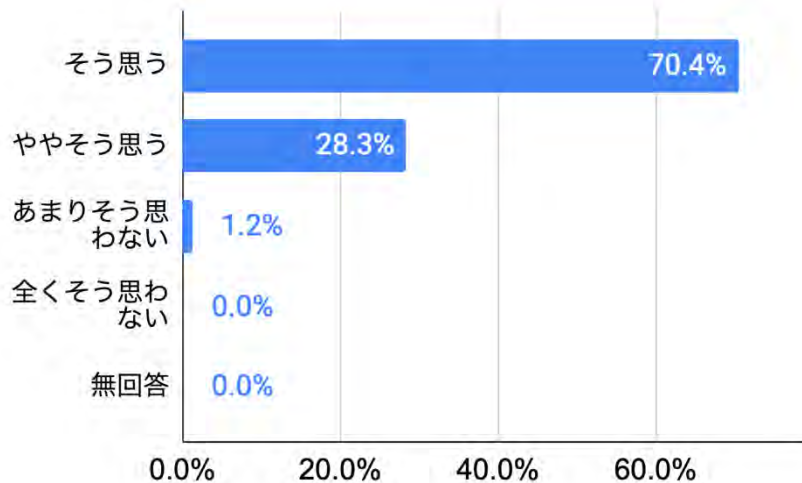
- 1～2 孤独・孤立への理解の深まり、興味関心の醸成について
 - 「理解できた」「興味関心が高まった」の回答の割合が高く、理解増進、興味関心の熟成は達成できている
- 3～8 相談窓口の活用、他者へのサポートへの意欲について
 - 「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合が高く、窓口の活用やサポートへの意欲は高まっている
- 9 講座の時間について
 - 「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、講座の時間は 60 分が適切と考えられる
- 10 テキストの内容のわかりやすさについて
 - 「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、現状の難易度が適切と考えられる
- 11～12 高校生にとってのテキストの内容のわかりやすさについて
 - 「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、高校生は大人版の受講者に含めて良いと考えられる
- 13 企業の研修等で使う際の内容の過不足について
 - 「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、ついで「少しものたりない」が高い
 - 要因：今回の受講者は日頃から孤独・孤立の問題に接しており、すでに興味関心を持っているため、内容に少しものたりなさを感じたと考えられる
- オンライン実施について
 - オンライン/オフラインで回答結果に違いは見られなかったため、オンラインでの実施も念頭に置く

(3)回答理由・意見

自由回答における主な回答理由、意見を抜粋して記載する。

4. <3 周囲に悩みや困りごとを抱えている人がいたら、できる範囲でサポートしようと思いますか？>

の回答を選択した理由についてお聞かせください。



【そう思う】

- 話を聞くだけでも力になれると思うから
- 自分自身も孤独を感じることがあり辛い気持ちがわかるため
- 友達が悩んでいるのを見るのが嫌だから力になりたいと思ったから
- そのような地域づくりが自分に返ってくると思うから

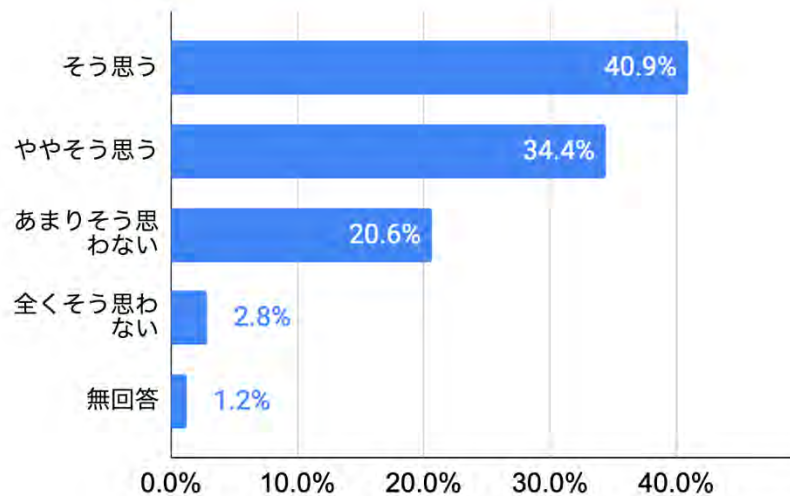
【ややそう思う】

- 話を聞く程度でもその人の助けにいくらかでもなる、と理解できたから
- 本人の思いが複雑化している場合も多く、慎重に思いを聞き取り、サポートできるかどうか判断したい
- できるだけ相手の孤独をサポートするべきだと思うがまず自分がそのリソースがあるかどうか分からない
- 日頃は職責としてサポートしているつもりだが、私的時間で寄り添えるかは自信がない

【あまりそう思わない】

- 限界があるため
- なんと声をかけていいかわからない

6. <5 自分が悩みや困りごとを抱えたとき、相談窓口を活用しようと思いますか？>の回答を選択した理由についてお聞かせください。



【そう思う】

- 友人に話しにくいことを話すことができるから
- 早期に解決できそうだから
- 困っていることを客観的に整理してもらえるから
- 心強い。たくさんの選択肢を聞くことができるから

【ややそう思う】

- まず自分の周りに頼ってみてそれでもダメなら窓口を利用したい
- 親しい人以外には相談をためらってしまうかもしれない。相談窓口を利用することを後押ししてくれる人がいれば利用するかも
- 相談することで根本的解決にはならなくとも参考にはなると思ったから
- その状況になったらもう人と話したくなくなるから

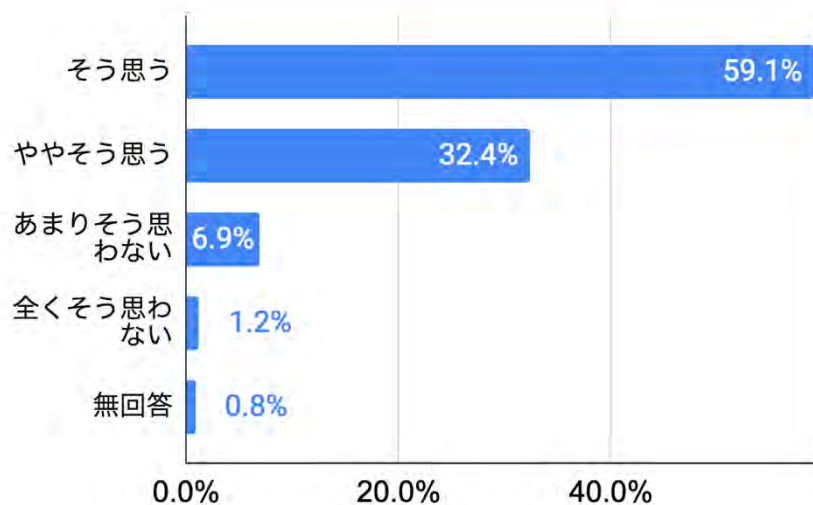
【あまりそう思わない】

- 自分自身で解決できると思うから
- そこまで深刻な悩みを抱えることを想像できないから
- 自分のことを理解しているもっと近い存在の人に言いたい
- 自分の悩みを他人に話したくない

【全くそう思わない】

- 身近に相談できる人がいるから
- 自分の悩みは、他人にとっては非常に小さく、人に知られるのが怖いから
- これまで別の件（子どもの健康相談ダイヤル、特定保健指導課等）で相談したときに、当たり前の通り、いっぺんという回答ばかりだった経験があるため

8. <7 周囲の人が悩みや困りごとを抱えているとき、相談窓口を勧めようと思いますか？>の回答を選択した理由についてお聞かせください。



【そう思う】

- 自分では解決できないので関係機関へつなぐ
- 自分が受け止めきれないような大きな悩みを打ち明けられた場合に、サポートしきれるか若干の不安が残るため、まずはプロのカウンセリングを受けることを進めたい
- 対人関係が苦手な人は、地域の人や親族などより、行政関係の方が良いかもしれません
- 窓口を知らない人が多いと思う

【ややそう思う】

- 個人の相談ではなく、専門的な相談が必要であれば勧める
- 一人も相談する人がいないときは相談所を頼ると良いと思う
- 相手がそれを望むかは分からないけど解決する一つの方法になるから
- 自分が相談したことがないから、いいものなのかわからないから

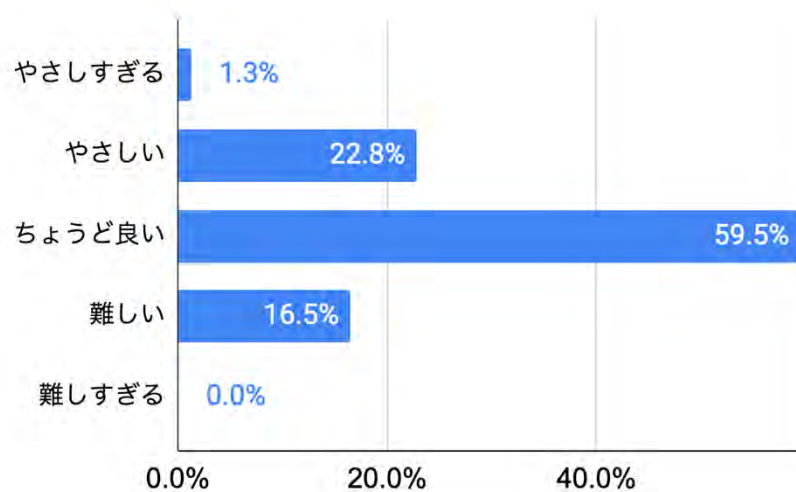
【あまりそう思わない】

- 解決しなかったらすすめたい
- 先に窓口を勧めたら「話を聞く気がないよ」と伝わってしまいそうだから自分が先に聞いてあげたい
- 使ったことがあるけどあまり良くなかったから
- 窓口を知らないから

【全くそう思わない】

- 場合によるが窓口を通さず解決できたら相手もより安心できると思うから
- 相談窓口を利用してどれだけの効果・効用があるのか懐疑的であるため、相談窓口を知っていても使おうという気になれない気がするため

12.<11 高校生にとってもわかりやすい内容だと感じますか?>の回答を選択した理由についてお聞かせください。(※日本工学院の場合のみ)



【ちょうど良い】

- 単語一つ一つもだいたい理解できると思いました
- グラフ、表があるから、ある程度わかりやすいと思った
- 例とかもあってわかりやすかったと思います
- 少し自分で考えるくらいがちょうど良いと思う

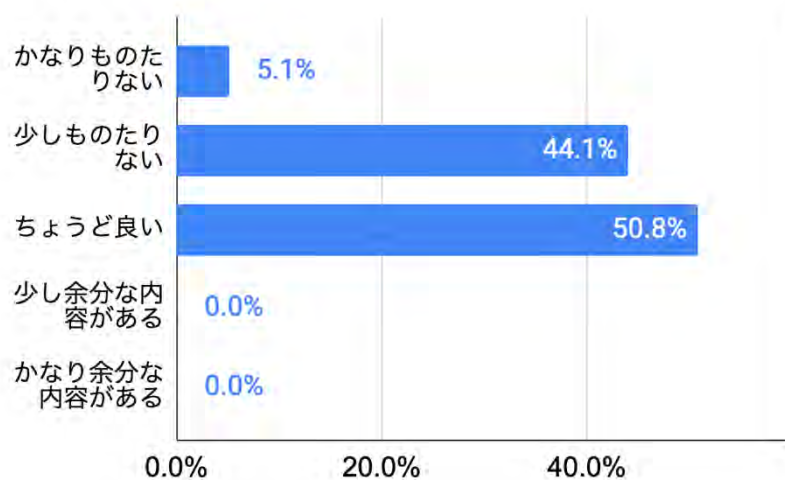
【やさしい】

- 高校生関係なく孤独・孤立の説明はわかりやすかったと思います
- 専門用語が多すぎないから
- グラフなど視覚的にわかりやすかった
- イラストも簡潔で内容のまとめ方も見やすかった

【難しい】

- 政府の機関とかわからないと思うから
- 孤独の概念という話し出しではじめるのは少なくとも難しいと思いました
- 少しかたい雰囲気があった
- 身近でない言葉が多い

14.<13 企業の研修等で使う場合に、内容は十分と感じますか?>の回答を選択した理由についてお聞かせください。(※日本生命の場合のみ)



【ちょうど良い】

- 具体的で良いと思いました
- ワークもあり、知るきっかけとしてちょうど良い
- 時間が参加しやすいと思う。テキストはわかりやすかった。誰もが孤独孤立になる可能性があるということがよくわかった
- 全体研修としてちょうど良いと思う。さらに何か関わりたいという人には、もう少し詳しい内容で実施しても良いと思う

【少し物足りない】

- 認識している内容が多かった
- 相談窓口について、もう少し具体的にわかれば、活用しやすいと思います
- 孤独を感じている人の見つけ方（特徴）や声の掛け方を学べると、行動に移しやすくなる
- 研修対象、研修目的、研修効果をどのあたりに設定するか、今回の内容ではよく見えないため

【かなり物足りない】

- 気づきはあるが具体的ではない

15.本講座で分からなかったこと、もっと知りたいことがあればご記入ください。

【日本工学院】

- QRコードをよみとる所（相談窓口の詳細）について、こういう機関である等の説明やお金がかかるかかからないか知りたかった
- ややあやふやな部分があるので、ドキュメンタリー映像とか見たい。その方が身近に感じられる気がする
- 窓口やNPOの専門家がどのような人間なのかを知りたい。専門家とだけ言われても怪しさがのこる

【鶴岡市】

- 現状、実態の話を聞きたい
- 具体的な活動事例が欲しい
- 周囲の人への声かけの例をもっと出してほしい

【登別市】

- 孤立は良くないと思うが孤独を好んでいる人もいるのでは。サポートを望んでない人への対応は何が適切か

【生駒市】

- 相談窓口へのつながりかた。つながれるつながり方を知りたい
- 身近な関わりどころがもっと具体的にあれば、一般の方でも関わりやすいかも
- つながりサポーター養成講座を受けた方は、結局どういう役割なのかがいまいち理解が難しい。相談に乗る人か、窓口を案内する人か

【日本生命】

- 各相談窓口のイメージが湧く内容があればもっと良い
- 政策や行政などでこの問題をどう解決していこうとしているのか。官学取り組みなど周辺情報などを知りたい
- 相談窓口を知っていても、相談できない人はどのくらいいるのだろうか

16.用語や表現で不適切だったり、気になったりしたものがあれば教えてください。

【日本工学院】

- 独りだと感じていない身からすると、ずっと聴き続けるのは大変かもしれない
- スライドがまわるのが早く、ページをめくるのが忙しかった
- 逆に気を配りすぎてふわふわした話になりすぎだと感じた

【鶴岡市】

- 「刑余」という単語は、自分が勉強不足なこともあるが意味がわからなかった（前科があることだったとスマホで調べてわかった）。犯罪歴などの表現にしたらどうか
- 「直接」会って話す期間、機会が少ない＝孤独というのは違うのかな？と思った（オンラインで話している人もいるだろうし）

【鶴岡市】

- 主観的概念、客観的概念とか難しい表現だと思います
- オレンジ色の文字、ピンク色の文字、オレンジ色に白抜きは弱視の方、高齢の方には視認性が悪いかもしれません

【生駒市】

- 「気にかけてあげる」「聞いてあげる」、してあげることなのか？
- 何も言わずとも、こういうことをやっている人はやっている。むしろ、ここで学んだからやる、という類いのものではないのでは

【日本生命】

- あるとすれば、暗い気持ちになる表現はやめてほしい
- 気を使った表現が多いが、ずばり言うことも必要

17.改善点やお気づきの点があれば自由にご記入ください。

【日本工学院】

- もう少し例え話みたいな、共考できたり、面白いって思える話題だとうれしい
- もし身近な人が悩んでしまってその人を支えるに当たっての心がまえや、こういった言葉をかけてあげようといったワンポイントアドバイスがっても良いのかなと考えました
- 大学の授業みたいにはぼインプットするだけだった。もっと対話する講座の方が興味を持てる

【鶴岡市】

- 数人単位でのグループワーク等、意見交換の場があれば良かった
- 窓口を羅列するだけでなく、そこを利用してどう助かったかという体験談を記載してはどうか。
(例)派遣切りにあい食べ物に困っていた方が、社協に相談したところ食べ物を提供してもらえた
- テキストは両面印刷にしてほしい。SDGs

【登別市】

- つながりサポーターであることが第三者が分かるようにしたり、このような制度があることを周知・宣伝した方が良いと思う
- 講師によってかなり違ってくるため、DVD や劇など、飽きさせずに理解してもらうためのアイデアは必要
- 各町内会においてどこの団体が音頭を取るのか、市民のみなさんか、主語を誰が取るのか、どう進めるのかが今後の課題と思います

【生駒市】

- 文字など見やすく良かったが、冊子状態になっていたら保存がしやすいと思った
- まずは専門職から認知症サポーターのように地域で受講できれば良いが、住民が重く感じないように配慮しないといけないと思う
- 統計で出したデータをもっとコンパクトにしたほうが聞きやすくなる。(全体的に時間が長く、集中力が続きにくいと思ったので、スッキリできる場所はスッキリした方がいいのでは)

【日本生命】

- サポーター自身にもプラスになる(充実度、ウェルビーイングなど+自分が孤立したときの助けにもなる)点も触れてはどうかと思いました
- オンラインベースにしてチャットをもっと活用した方が双方向な運営になったように思います
- 人に話しかけるのが苦手な人が声かけをできるための工夫等の紹介もあれば良い。どうしても心理的な壁を感じてしまうので